

「全国地域づくり人財塾」事例報告者の
地域づくり活動事例調査報告

<< 目次 >>

- ①. 山形市: ワクワク朝活プロジェクト～市民がつながる場づくりを目指して
山形市行政推進課 後藤 好邦(H25.3月 JAMP受講) 1
- ②. 米沢市: 学生との連携による地域づくり～ 地域に飛び出す若者ネットワーク
米沢市総合政策課 相田 隆行(H24.3月 JAMP、H25.2月ステップアップ編 受講) 5
- ③. 国分寺市: 地域のつながりをめざして～つなげよう! 地域のカ
国分寺市総務部職員課 増本佐千子(H24.7月自治大、H25.2月ステップアップ編受講) ... 9
- ④. 徳島市: 地域資源をキーワードに仲間を集う!! ～若者活躍の場づくりに挑戦
徳島市納税課 阿部知彦(H24.3月 JAMP、H25.2月ステップアップ編 受講) 13
- ⑤. 高梁市: 地域おこさない協力隊員の事例～地域おこし協力隊3 年間の取組と今
カフェ裏駅 (店主) 長野 エドウィン・タケル(H25.3月JAMP 受講) 17
- ⑥. 河内長野市: 人づくりから始まるまちづくり
河内長野市都市魅力戦略課 東映道(H25.3月 JAMP 受講) 21
- ⑦. 小平市: 人財塾受講後のフォローアップ研修等について
小平市 健康福祉部 保険年金課 谷合 謙太(H25.3月 JAMP 受講) 23
- ⑧. 門真市: 防災のまちづくり～ 地域づくりへむけたNPOの取組み
NPO法人あいまち門真ステーション理事長 東田正(H25.1月 JIAM、H27.9月 ケーススタ
ディ型 受講) 27
- ⑨. 周南市: 若者の地域参画推進の取組
公益財団法人周南市ふるさと振興財団 國兼裕司(H25.9月JIAM、H26.2月ケーススタディ型
受講) 31
- ⑩. 愛媛県: 資源の橋渡しを通じた公益活動の活性化
NPO法人えひめりソースセンター 安永依里子(H25.9月 JIAM、H26.2月ケーススタディ型 受
講) 35
- ⑪. 山武市: 地域づくりの場としての図書館をめざして～人がツナガル図書館へ
山武市さんぶの森図書館 豊山希巳江(H25.10月 JAMP 受講) 39
- ⑫. 養老町: ヨロストの若返りと活性化を目指した町おこし
特定非営利活動法人ヨロスト代表理事 竹内 蘭(H25.3月JAMP、H26.2月 ケーススタディ
型 受講) 43
- ⑬. 兵庫県三田市 地域ぐるみのまちづくり ～地域担当3 年間の取組とこれから～
三田市農業振興課 青野 敬(H26.6 月 JIAM、H27.2 月ケーススタディ型 受講) 47

山形県山形市 ワクワク朝活プロジェクト～ 市民がつながる場づくりを目指して

山形市行政推進課 後藤 好邦 (H25.3 JAMP 受講)

市町村 (地域) 概況	<ul style="list-style-type: none"> ・人口：252,632人（2015年10月1日現在）、面積（381.3km²） ・東に奥羽山脈、西に朝日連峰を望む自然豊かな城下町。明治以降は、県都として山形県の政治、経済の中心として発展してきた。 														
活動主体と 活動地区	報告者の活動 経歴	2009年に東北地方の自治体職員を中心としたネットワーク「東北まちづくりオフサイトミーティング」を立ち上げる。その後、山形市周辺でも人と人が繋がるための場づくりに取り組んでいる。													
地域づくり の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・山形市では地域コミュニティごとに設置していた20の地区公民館を、平成23年度までにコミュニティセンター化し、地域住民団体を運営主体として施設の維持管理を委託している。そして、同センターを中心とした住民主体による地域づくりを推進している。 														
地域課題 または 問題意識	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティセンターを活用した住民主体による地域づくりを進めようとしているが、地区により温度差があり、また、人同士、地区同士がつながる場が少ない。 														
これまでの 取組 (受講前の 取組)	<ul style="list-style-type: none"> ・受講前までは、主として東北全体をフィールドに人つなぎのための活動を行っていたが、徐々に、その活動を山形市内でも展開していくようになった。 <table border="1" data-bbox="339 1039 1444 1534"> <thead> <tr> <th>開始年月</th> <th>事柄</th> <th>概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H21.6月</td> <td>東北まちづくりオフサイトミーティング発足</td> <td>東北各地の自治体職員と連携しながらネットワークを立ち上げ、定期的な勉強会の開催やITを活用した情報交換を行ってきた。</td> </tr> <tr> <td>H21.10月</td> <td>西山形の酒を造る会への参加</td> <td>平成17年よりスタートしていた西山形の酒を造る会の活動に参加し、住民主体による地域活性化の取組に地域住民とともに取り組んでいる。</td> </tr> <tr> <td>H24.9月</td> <td>映画「ふるさとがえり」上映会</td> <td>自分にとっての「ふるさと」とは何かを山形市の方々に考えていただくきっかけの場として映画「ふるさとがえり」の自主上映会を開催した。その後、山形市内や山形市周辺市町村での上映会に波及している。</td> </tr> </tbody> </table>			開始年月	事柄	概要	H21.6月	東北まちづくりオフサイトミーティング発足	東北各地の自治体職員と連携しながらネットワークを立ち上げ、定期的な勉強会の開催やITを活用した情報交換を行ってきた。	H21.10月	西山形の酒を造る会への参加	平成17年よりスタートしていた西山形の酒を造る会の活動に参加し、住民主体による地域活性化の取組に地域住民とともに取り組んでいる。	H24.9月	映画「ふるさとがえり」上映会	自分にとっての「ふるさと」とは何かを山形市の方々に考えていただくきっかけの場として映画「ふるさとがえり」の自主上映会を開催した。その後、山形市内や山形市周辺市町村での上映会に波及している。
開始年月	事柄	概要													
H21.6月	東北まちづくりオフサイトミーティング発足	東北各地の自治体職員と連携しながらネットワークを立ち上げ、定期的な勉強会の開催やITを活用した情報交換を行ってきた。													
H21.10月	西山形の酒を造る会への参加	平成17年よりスタートしていた西山形の酒を造る会の活動に参加し、住民主体による地域活性化の取組に地域住民とともに取り組んでいる。													
H24.9月	映画「ふるさとがえり」上映会	自分にとっての「ふるさと」とは何かを山形市の方々に考えていただくきっかけの場として映画「ふるさとがえり」の自主上映会を開催した。その後、山形市内や山形市周辺市町村での上映会に波及している。													
人財塾の 受講目的	<ul style="list-style-type: none"> ・地域活動の効果的で効率的な実践方法を学ぶ ・全国各地で活動している地域づくり実践者との交流 														
人財塾で 学んだこと 効果	<ul style="list-style-type: none"> ・豊重先生に教えていただいた「人の心を動かすのは感謝と感動のみ」という言葉は私の行動指針となっている。 														
受講後の 取組	<table border="1" data-bbox="339 1742 1444 2022"> <thead> <tr> <th>年月</th> <th>事柄</th> <th>概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H25.12月</td> <td>ワクワク朝活プロジェクトのスタート</td> <td>毎週第2土曜の朝に、山形市周辺で地域づくりやまちづくりに向け実践したいことがあるにも関わらずノウハウや人脈がないことで一歩踏み出す勇気を持ってない人たちにプレゼンターを務めていただき、一歩踏み出すためのヒントや仲間を得るための場づくりを行なっている。</td> </tr> </tbody> </table>			年月	事柄	概要	H25.12月	ワクワク朝活プロジェクトのスタート	毎週第2土曜の朝に、山形市周辺で地域づくりやまちづくりに向け実践したいことがあるにも関わらずノウハウや人脈がないことで一歩踏み出す勇気を持ってない人たちにプレゼンターを務めていただき、一歩踏み出すためのヒントや仲間を得るための場づくりを行なっている。						
年月	事柄	概要													
H25.12月	ワクワク朝活プロジェクトのスタート	毎週第2土曜の朝に、山形市周辺で地域づくりやまちづくりに向け実践したいことがあるにも関わらずノウハウや人脈がないことで一歩踏み出す勇気を持ってない人たちにプレゼンターを務めていただき、一歩踏み出すためのヒントや仲間を得るための場づくりを行なっている。													

■報告者の取組紹介（展開の経緯・流れ）

●STEP1 東北まちづくりオフサイトミーティング発足（H21年6月）

東北管内における地域づくりやまちづくりに資する人財育成を目指し、2009年6月6日に発足。「敷居は低く、されど志は高く」というコンセプトを掲げ、①勉強会をはじめとした各種イベントの開催と②ホームページやメーリングリスト、Facebookなどを活用した情報交換・情報発信という2本柱で活動を行っている。



恒例の芋煮会



被災地・釜石でのチャリティライブ 復興を考えたワークショップ



●STEP2 西山形の酒を造る会への参加（H21年10月）

「西山形の酒を造る会」の活動は「地元の米と水で自分たちの美味しい酒を造る」という熱い想いを持った地域住民の方々が始めた活動で、平成17年にスタートを切った。地元で穫れた山形県産米「出羽燦々」と白鷹山系の湧水を男山酒造に持ち込みお酒を造ってもらい、一方で、「自分たちの酒を造ろう」との触れ込みで幅広く会員を募った。会員になると1口1万円の会費を支払わなければならないが、その代わりに、柏倉門傳が四合瓶で8本支給される。そうした仕組みづくりを行ない、この売り上げの一部を地域振興に活かすことで、持続可能な活性化事例として多方面から評価を受けている。この活動に平成21年度から参加し、地域住民の方々と共に活動している。



酒米の収穫



西山形の酒を造る会の酒・柏倉門傳



●STEP3 映画「ふるさとがえり」上映会（H24年9月）

山形市役所の若手・中堅職員と実行委員会を立ち上げ、岐阜県恵那市を舞台に「ふるさと」について問いかける映画「ふるさとがえり」の上映会を山形市内で実施した。そして、山形市民をはじめとした参加者の皆さんと共に、ふるさとや地域、家族について考える場を創った。



参加者による集合写真（左）と上映会終了後に開催したパネルディスカッション（右）

■取組を進める過程で生じた課題

- ・メンバー間の活動に対する方向性の違い（東北まちづくりオフサイトミーティング）
- ・世代交代（東北まちづくりオフサイトミーティング・西山形の酒を造る会）
- ・住民とのコミュニケーション（西山形の酒を造る会）
- ・資金調達（「ふるさとがえり」上映会）
- ・共感の伝播方法（すべての活動）

■効果を育むため、課題解決のために留意したこと

●一人ひとりが主役になれる仕掛けづくり

様々な活動に共通していえることだが、その活動を成功に導くためには、メンバー一人ひとりが、その活動を自分事として感じながら主体的に取り組むことができるかが、重要なポイントだといえる。そのため、若いメンバーや参加して日が浅いメンバーに対しても、司会や事例報告など、重要な役割を任せ、その活動の一員なんだと感じるような仕掛けづくりを行なった。



「ふるさとがえり」上映会の冒頭で挨拶する
若手メンバー



若手メンバーが上映会

●感謝の気持ちを感動でお返しする仕掛けづくり

自分たちが主催している活動に参加していただいた感謝の気持ちを感動でお返しする仕掛けづくりを様々な形で実行した。例えば、東北まちづくりオフサイトミーティングの勉強会を福島県内で開催した時には、福島県以外の46都道府県から福島県の方々に対する応援メッセージ写真を集めエンディングムービーを上映したり、また、陸前高田で勉強会を開催した時などは、三陸沿岸で復興に向け全力を尽くしているの方々から復興に向けたメッセージを語っていただいたりした。このような心に響く感動を呼び起こすような仕掛けづくりを行なったことが、東北まちづくりオフサイトミーティングのリピーターを増やした要因となっている。なお、東北まちづくりオフサイトミーティングのメンバーは発足当初の28名から現在は850名を超えるまでに成長している。



福島県の皆さんへのメッセージ写真

■成果

東北全体、そして、山形市周辺で人と人がつながる場を創ることができた。

特に、東北まちづくりオフサイトミーティングの活動を通して、東北内での地域間のつながり（三陸沿岸交流会など）や東北の被災地とそれ以外の地域とのつながりが生まれ、復興に向けた一助となっている。

また、西山形の酒を造る会の活動に関しては、我々が参加したことにより、山形市外からの参加者が増え、地域住民の方々のモチベーションを高めることができた。

いずれにしても、つながりの輪が広がれば広がるほど、それぞれの活動の可能性が広がっていくことを実感できている。



三陸沿岸交流会（ワークショップ）



東北の活動に触発されて発足した
九州まちづくりオフサイトミーティング

■受講前の課題・人財塾で学びたいこと

- ・持続可能な組織づくり
- ・住民の巻き込み方

■受講後の取組、今後の方向性

●ワクワク朝活プロジェクトのスタート

山形市周辺に住む思いのある人同士がつながる場を創ろうと、平成26年12月に仲間と協力しながらワクワク朝活プロジェクトをスタートさせた。企画担当者を月ごとに交代する当番制とし、特定のメンバーに負担が偏らないようにしている。毎回、地域づくり等に向け実践したいことがあるにも関わらず一歩踏み出す勇気を持たない人たちにプレゼンターを務めていただいているが、彼らのプレゼンをきっかけに思いを持った人同士が繋がり、新たな取組へと発展するケースも現れ始めている。



参加者による集合写真（左）とワークショップを楽しむ様子（右）

山形県米沢市 学生との連携による地域づくり ～地域に飛び出す若者ネットワーク

米沢市総合政策課 相田 隆行 (H24.3 JAMP、H25.2 ステップアップ編 受講)

<p>市町村 (地域) 概況</p>	<p>・人口：85,811人（平成27年12月末現在）、面積：548.74km² ・山形県の母なる川「最上川」の源である吾妻連峰などに囲まれた盆地で、山形県の一番南の玄関口に位置する。 米沢藩は戦国の名将：上杉謙信を家祖とし、初代藩主：上杉景勝、その家臣の直江兼続や前田慶次、藩政改革を行った上杉鷹山などにゆかりのある「上杉の城下町」でもある。</p>		
<p>活動主体と活動地区</p>	<p>報告者の活動経歴</p>	<p>米沢市総合政策課地域振興担当（平成23年4月～） 報告者は、業務として地域づくり全般（主に学生や住民との連携事業、移住定住促進事業）担当。またライフワークとして、地元若者と各種イベントの企画運営等に携わり、人と人との繋ぎ役（パイプ役）として活動をしている。</p>	
<p>活動地区</p>	<p>・山形県米沢市 他</p>		
<p>地域づくりの状況</p>	<p>米沢市新総合計画（平成28年度～）では、地域の将来像を「ひとが輝き 創造し続ける学園都市・米沢」とし、人づくり（人の連携・人の定住・人の育成）を中心とした地域づくりを推進しながら、住民一人一人が魅力・愛着を感じる地域を目指している。</p>		
<p>地域課題または問題意識</p>	<p>・地域づくりに関心のある若者と無関心の若者との温度差。 ・地域活動している団体同士の連携（特に、世代や活動分野を超えた地域活動の連携）。</p>		
<p>これまでの取組 (受講前の取組)</p>	<p>・業種や世代、立場の枠にとらわれないネットワークづくり・コミュニティづくりを目指し、積極的に地域に飛び出し、仲間と一緒に自発的な活動を続けてきた。</p>		
	<p>開始年月</p>	<p>事柄</p>	<p>概要</p>
	<p>H21.7月</p>	<p>米沢青年会議所の入会（H27.12卒業）</p>	<p>明るい豊かな社会の実現を目指し、次代の社会的リーダーを志す青年と共に地域活動を実施する。</p>
	<p>H23.3月</p>	<p>東日本大震災避難者への支援活動(ボランティア山形他)</p>	<p>米沢市を拠点として、避難所運営、避難者との交流事業、10円バザーなど、被災者の方々、避難者の方々の支援活動を行っている。</p>
<p>H23.5月</p>	<p>「棒杭市」学生プロジェクトチームの立ち上げ</p>	<p>今まで行政主導で企画運営していたイベント「棒杭市」を大学生にも声掛けし、プロジェクトチームを立ち上げ、15名の学生と企画運営を行った。</p>	
<p>人財塾の受講目的</p>	<p>・団体等に所属していない若者（学生も含め）の地域活動のきっかけづくり ・世代を超えたネットワークづくり、若者主体の活動を促進させる環境づくり</p>		
<p>人財塾で学んだこと効果</p>	<p>・ステップアップ編では、各地域での実践課程の課題について、参加者同士で共有・解決の糸口を掴むことで、その後の活動において多面的な視点から活かすことができた。 ・SNSでそれぞれの活動を発信、経過報告することで、お互い「刺激・気づき・学び」が生まれ、継続的な地域活動・人材育成の「原動力」になっている。</p>		
<p>受講後の取組</p>	<p>年月</p>	<p>事柄</p>	<p>概要</p>
	<p>H24.4月</p>	<p>学生サークル『アクセルリンク米沢』設立</p>	<p>「棒杭市」学生プロジェクトから地域活性化・自己成長を目的とした学生サークル『アクセルリンク米沢』への発展。活動も学生による主体的な地域づくりへと移行。地域活動に取り組む世代を超えた若者団体の交流の場、機会を増やしていく。</p>
<p>H24.11月</p>	<p>高校生×大学生×社会人の出会いづくり</p>	<p></p>	

■報告者の取組紹介（展開の経緯・流れ）

●STEP 1 「地域の宝（地域資源）」との繋がりを楽しむ若者の機会づくり（H23年5月）

米沢青年会議所での社会活動や東日本大震災の支援活動を通じて、様々な立場の若者と共に活動していく中で、新しい活動の場・出会いの場を求めている若者（学生）が多いことに気づく。

そうした若者の活動の場づくりのために、平成23年に今まで行政主導で行ってきたイベント「棒杭市」の企画運営を大学生からメンバーを募り、「学生プロジェクト」として活動開始。学生のアイデアを活かし、米沢の伝統文化を体験できる伝統市、昔遊びコーナーなど子供から大人まで楽しめる新企画も増やし、出店者や装飾業者、伝統工芸職人への協力の呼びかけもできるだけ学生自身が行うようにした。

こうした活動をきっかけに、学生が米沢の地域資源（歴史・伝統文化・伝統工芸・米沢人・職人・おもてなしの心等）と出会い、さらに地域住民やお客様との繋がりが生まれることで、学生のさらなるやる気と地域に対する愛着・誇りが深まっていった。



「棒杭市」学生プロジェクトチーム



会場装飾もすべて学生たちの手作り



無人販売所「棒杭市」の風景

●STEP 2 学生プロジェクトチームから地域づくり学生サークルへの発展（H24年4月）

当初は、「棒杭市」の企画運営のために集まった15名の学生プロジェクトチームであったが、平成24年には「人と人との繋がりをさらに加速していこう！」という思いから地域活性化と自己成長を目的に学生サークル『アクセルリンク米沢』を立ち上げ、「棒杭市」企画運営を中心とした活動から、次第に活動の柱・フィールドを地域づくりへと移しながら、70名を超える学生による主体的な活動が展開されている。今では地域に欠かせない、学生がつくるイベントとして「棒杭市・伝統市」が定着し、さらに他の地域イベントにも積極的に参加・連携しながら、世代を超えた繋がりを深めている。



学生サークル：アクセルリンク米沢



米沢青年会議所等の社会人団体とも連携しながら、イベント企画運営に参画



首都圏の大学生と一緒に温泉街活性化の取り組み

●STEP 3 「夢プロジェクト」の立ち上げ～新しい地域活動のカタチづくり～（H25年4月）

『アクセルリンク米沢』の学生をはじめ地域活動を行っている多くの若者団体と一緒に活動していく中で、他団体との連携の仕方が分からない、地域活動内容のマンネリ化、団体内の志の温度差、地域活動団体に入ることへの抵抗などの課題解決に向け、地域活動団体の枠を越えた新しいネットワークづくりが必要であると思い、ステップアップ編受講後【夢プロジェクト】を立ち上げた。

この【夢プロジェクト】は、地域を盛り上げたい・何かやりたいという「夢」を持った若者同士が「新しい心の繋がり」で楽しみながらイベントの企画運営をしていくプロジェクト。このプロジェクトを通じて出会った新しい仲間が地域の「将来の夢のストーリー」をお互いに描きながら、そしてそれを少しずつカタチにしていって行く過程で、連携する楽しさや地域活動の楽しさを実感、再確認していく。

基本、それぞれのプロジェクト終了ごとに一旦解散とすることで、それぞれの活動が個人や団体（サークル）の負担にならないような体制作りを心がけている。

■取組を進める過程で生じた課題

- STEP 1 地域活動を行っている学生にかかる負担の大きさ（時間・体力・責任）
学生の地域活動があまり知られていない・評価されていない（学生のインセンティブ）
- STEP 2 地域活動に対するサークル内での想いの温度差（卒業等でメンバーが変わる）
他団体との連携の仕方が分からない（他団体に対する情報不足）
地域活動団体（サークル）に入ることへの抵抗（地域づくりの敷居を高く感じる）

■効果を育むため、課題解決のために留意したこと

●信頼関係を大切にしながら小さな繋がりを丁寧に繋いでいく。

はじめから若者（学生）に地域づくりや地域活性化を求めるのではなく、まずは地域との繋がりの楽しさ、自己成長を実感してもらうことが重要である。学生の主体性を無視し、一方的に地域づくりを求め過ぎれば、若者たちは自分たちが利用されているだけだと感じてしまい、やる気や意欲を損ねてしまう可能性がある。はじめから大きな繋がりを目指すのではなく、小さな繋がりを丁寧に繋ぎ、そのパイプを信頼関係で徐々に太くしていくことが大事である。

●アンテナを常に高く持ち、地域づくりに関わる若者・仲間＝パートナーを増やしていく。

行政は地域づくりに積極的に関わっている団体・若者（学生）ばかりに頼ってしまう傾向がある。確かに実績のある団体は信頼がおけ確実だが、様々な若者に地域活動の機会を増やしていくことで地域に関わる人材が育ち、住民一人ひとりの活力が発揮できる協働による地域づくりに繋がっていく。

そのためにも、アンテナを高く持ち、地域活動に関わる若者の機会づくりを増やしていく必要がある。

●マスコミ、SNSを活用し、若者の活躍を発信することで若者の自信に繋げる。

若者の地域活動やその想いを様々な方法で積極的に発信することで、自分たちの活動を客観的に見ることができ、若者たちの自信とやりがいにも繋がる。さらにそうした若者の活躍を住民が知ることで、大きな刺激や気づきが生まれ、地域活動に参加するきっかけにもなる可能性もある。



学生の活躍を地元新聞で紹介



【夢プロジェクト:第1弾】に関わる若者を Facebook 等で毎日発信



【夢プロジェクト:第2弾】の若者の活動を地元新聞で紹介

■成果

●地域の大事なパートナー＝大学生の活躍による相乗効果

大学生自らが主体的に地域とかかわり、住民と連携しながら、繋がりを深めていく活動を通じて、学生同士はもちろん、住民や民間企業との活発な交流が生まれるだけでなく、地域全体に活気をもたらしている。【大学生＝ヨソモノ・ワカモノ】が熱いパワーで明るく楽しく活動することで、地元の【地域づくりバカモノ】と繋がり、徐々に【地元ワカモノ】も動き出し、大学生と地元若者との出会いの輪が広がっている。さらに、大学を卒業し社会人になってからも自分たちの創った愛着と誇りのあるイベントの時期等に仲間を連れて第二の故郷に帰ってきてくれる。また、地元出身学生も地域活動を通じ、地

東京都国分寺市 地域のつながりをめざして～つなげよう！地域の力～

国分寺市総務部職員課 増本佐千子 (H24.7 自治大、H25.2 ステップアップ編 受講)

<p>市町村 (地域) 概況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・人口 119,966 人 (平成 27 年 12 月 1 日現在)、面積 11.48 km² ・東京都のほぼ中央に位置する武蔵野の面影残す自然と歴史豊かな住宅都市。新宿から JR 中央線で約 30 分、多摩地域の交通の要衝。 ・年々農地の宅地化が進み、人口は増加傾向にある。 		 <p>国分寺市 東京都</p>												
<p>活動主体と 活動地区</p>	<p>報告者の活動 経歴</p>	<p>平成 24 年 4 月経験者採用で入職。市民生活部協働コミュニティ課にて市民活動の推進や NPO 法人支援、自治会・町内会や姉妹都市交流事業も担当。平成 27 年 4 月総務部職員課に異動。(入職以前は子育て支援の NPO 法人を設立し、認可保育所の運営等の地域活動に従事)</p> <p>活動地区</p> <p>市内全域 (協働コミュニティ課の担当する 6 つの地域センターと市民活動センターを拠点とする)</p>													
<p>地域づくり の状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 21 年 4 月「国分寺市自治基本条例」を制定し、市民の参加と協働を推進している。 ・市役所直営で運営している市民活動センターの登録団体は 140 余、市民活動の拠点として情報発信などのセンター機能強化や人材育成が求められている。 ・平成 27 年 4 月現在、自治会・町内会への加入率は 39.7% であり年々減少傾向にある。 														
<p>地域課題 または 問題意識</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域活動に熱心な市民は多くとも、団体や組織として行政と協働していくグループは限られている。 ・地域のつながりが希薄化していく中で、住民の自治会や町内会への加入率も減少傾向にあり、若者や子育て世代の地域への関わり方が問われている。 ・多様化する住民からのニーズや地域の課題を、行政だけではなく地域のみんなで解決できる仕組みづくりを模索している状況。 														
<p>これまでの 取組 (受講前の 取組)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の当事者同士が顔見知りの関係を構築し、それぞれの課題やニーズを共有・把握し合うよう、行政は積極的に協働のコーディネートに取り組む。 <table border="1" data-bbox="341 1254 1445 1702"> <thead> <tr> <th>開始年月</th> <th>事柄</th> <th>概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H17.5 月</td> <td>「自治会・町内会連絡会」の開催</td> <td>地域コミュニティを構成する自治会・町内会等に情報提供を行うと共に警察署や消防署の担当者も交えて、会長同士の意見交換や懇談の場を設定し、地域の活性化を図った。</td> </tr> <tr> <td>H18.11 月</td> <td>「団体交流会」を開催</td> <td>市民活動団体同士の情報共有や横の連携を取ることを目的に開催する。トークサロンのような雰囲気参加者の問題意識や声を収集する。</td> </tr> <tr> <td>H24.5 月</td> <td>団体ヒアリングの実施</td> <td>市民活動センターに登録している団体の事務所や活動拠点を訪問し、団体の課題や現状のニーズを把握するためヒアリングした。</td> </tr> </tbody> </table>			開始年月	事柄	概要	H17.5 月	「自治会・町内会連絡会」の開催	地域コミュニティを構成する自治会・町内会等に情報提供を行うと共に警察署や消防署の担当者も交えて、会長同士の意見交換や懇談の場を設定し、地域の活性化を図った。	H18.11 月	「団体交流会」を開催	市民活動団体同士の情報共有や横の連携を取ることを目的に開催する。トークサロンのような雰囲気参加者の問題意識や声を収集する。	H24.5 月	団体ヒアリングの実施	市民活動センターに登録している団体の事務所や活動拠点を訪問し、団体の課題や現状のニーズを把握するためヒアリングした。
開始年月	事柄	概要													
H17.5 月	「自治会・町内会連絡会」の開催	地域コミュニティを構成する自治会・町内会等に情報提供を行うと共に警察署や消防署の担当者も交えて、会長同士の意見交換や懇談の場を設定し、地域の活性化を図った。													
H18.11 月	「団体交流会」を開催	市民活動団体同士の情報共有や横の連携を取ることを目的に開催する。トークサロンのような雰囲気参加者の問題意識や声を収集する。													
H24.5 月	団体ヒアリングの実施	市民活動センターに登録している団体の事務所や活動拠点を訪問し、団体の課題や現状のニーズを把握するためヒアリングした。													
<p>人財塾の 受講目的</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・行政職員が地域に出ていく仕組みをどう構築していけるのか、先駆的事例を学び、本市での活動の参考にしたい。 ・他の自治体職員と交流し意見交換したい。 														
<p>人財塾で 学んだこと 効果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークショップにおいては参加者の熱意と郷土愛に触れ、また講義においては講師各位の懐の深さや示唆に富んだ事例紹介に日頃の業務を見直す大きな契機となった。 ・各地域および参加者による「地域を巻き込む」力や視点、広報活動の具体例には非常に啓発され、地域のお祭りの情報収集や事業者とのイベント共催につながった。 														

受講後の 取組	・これまでの活動をさらに発展させ、各事業に学生や商店街・地元企業などとも連携をはかり、参加者が地域の活動を多面的かつ横断的に捉えられるよう工夫した。		
	年月	事柄	概要
	H25.8月	「地域・団体交流会」の開催	市内を4つの地域に分け、地域のつながり作りを目的に市民活動団体や自治会・町内会、商店会や地元企業、学生、市職員との交流の機会とした。
	H25.8月	「市民活動とその支援：センターを知る・考える」を開催	市民活動センターの機能強化をめざして、近隣自治体の中間支援組織における取組を知り、参加者と共に考える機会とした。
H26.10月	国分寺市市制施行 50周年記念「市民活動フェスティバル・平兵衛まつりコラボレーション」事業	例年、春に行っている市民活動団体によるイベントと秋に行われる市内の研究機関のお祭りをジョイントさせ、春には研究所より公開講座に講師派遣を依頼し、秋にはお祭りに市の紹介ブースを出展した。	

■報告者の取組紹介（展開の経緯・流れ）

●STEP1 自治会・町内会連絡会

地域コミュニティの活性化を図るため、前身の「ふれあい懇談会」から含め、すでに10年近く自治会・町内会連絡会を実施し、平成19年度からは社会福祉協議会とも共催で行ってきた経緯がある。しかし、参加者アンケートによると「行政からの資料配布がメインではないか」または「会のマンネリ化」を指摘する声もあり、参加者の減少も見られた。

そこで、これまでは教室形式などで行っていた会の運営を行政からの一方的な進行にならないように、地域ごとにグループ分けし、各テーブルに市職員や学生が同席した。それにより参加者からは「意見交換を行いやすくなった」「お互いに名前や顔が覚えられるようになった」との声をいただいた。



●STEP2 団体交流会

こくぶんじ市民活動センターに登録している団体間の交流会として実施してきたが、団体の規模や活動内容等が異なる中で団体の積極的な参加が見られず、会の在り方や市民活動センターの運営そのものが問われてきた。一方で、交流や意見交換へのニーズは一定程度あったため、従来市内の会議室で行っていたが平成25年度には地域センターに会場を変更して開催し、年度末までに5回実施した。

最終回は各地域の総括を行う「結：地域を結ぶ・輪を創る」と題し、延べ71団体、177名が参加するに至った。



●STEP3 団体ヒアリング

市民活動センターに登録している団体の事務所や活動拠点を訪問し、団体の課題や現状のニーズを把握するためヒアリングした。(平成26年度末までに計45団体を訪問。)

それぞれの団体の設立経緯を踏まえた助成金獲得や事業拡大などの問題点を伺いながら、今後の方向性や選択肢の提示など必要に応じた助言や支援を行った。



■取組を進める過程で生じた課題

- ・組織の疲弊（役員やスタッフなど担い手不足のため特定のマンパワーに依存）
- ・情報の受発信（インターネットやスマートフォン対応と個人情報の取り扱い）
- ・ネットワーク化への世代間格差（若年層と高齢者層）

■効果を育むため、課題解決のために留意したこと

●発信力を高める

情報共有や団体間の連携以前に、地域の住民にも関心を持ってもらえるテーマ設定を行いながら、開催案内やチラシ・ポスターもインパクトの色遣いに配慮する等、スタッフによるツイッターでのつぶやきなど従来にない手法を取り入れ、参加者の増加を図った。

●他を知る

市民活動と支援の内容ふくめて、他の自治体や中間支援組織では、どのような事業をどんなメンバーによって行われているのか。それを知る機会を作ることによって、より実践的な市民活動支援が可能になると考え、近隣自治体の担当者から直接お話を聞く場：

「市民活動とその支援～センターを知る・考える～」を年に2回設けた。既存の団体だけではなく、これから市民活動を始めてみようと考えている地域住民や学生の参加もあり、小人数ながら、活発な質疑応答が行われた。(35名の参加)

また、東京都生活文化局発行の『中間支援組織活動』ハンドブックも教材として取り寄せ、当日の資料とした。



■成果

●広報活動の見直し

(1) 市民活動センターのホームページをリニューアルしたところ、閲覧数が伸びた。

(2) 市報に「連載枠」を設置。ホームページのリニューアルに伴うデジタルコンテンツの充実に加えて、やはり紙面による情報発信も不可欠だと考え、市内で積極的に活動している団体の紹介やイベント告知の機会を年間6回設けた。

こくぶんじ市民活動センターです 〈第6回〉

第8回市民活動フェスティバルを開催しました

こくぶんじ市民活動センター（市役所第3庁舎1階）は、市内で活動する市民活動団体やNPO法人のさまざまな支援を行っています。
市民活動を始めたい、始めたいばかりの方のご相談・支援なども行っています。ぜひ、お気軽に市民活動センターへお立ち寄りください。

今年も市民の皆さんに市民活動を知っていただく機会として、4月20日にひかりプラザで、第8回市民活動フェスティバルを開催しました。
市制施行50周年の今年初の試みとして、ひかりプラザ北館直前に、ダンボールを使った子ども遊び「J」A東京むさしによる区分せ産野菜の苗売や区分せ郵便局による「市制施行50周年記念ポスト」等の贈呈企画を行いました。心配されていた雨も降らず、約800人の来場者をお迎えし、会場は大変にぎわいました。ひかりプラザでは、ブスのでの団体の活動紹介展示、ステージでのパフォーマンス、体験企画・相談会、スタンプラリーなど、たくさんの方がありました。
また市制施行50周年記念コラボレーション企画として、鉄道総研の講師による「光明から世界のシンカセンターへ―新幹線誕生物語―」と題する講演を行いました。
ふんじほたるもイベントも盛り込み、ステージでフォークダンスを踊ったり子どもたちと写真撮影をしたりと、会場を盛り上げてくれました。
※市民活動フェスティバルは、毎年10月に参加団体を募集し、実行委員会形式で開催しています。

こくぶんじ市民活動センター

「情報の提供」「活動の場・設備の提供」「相談の受付」「交通・協働の促進」「研究・調査」の5本の柱で市民活動団体の支援を行っている機関です。年報の機関紙「こくぶんじ」や新聞、HPによる情報発信、印刷機やプロジェクター・会議室等の設備提供を行っています。
<http://www.collabo-kokubunji.com/>
こくぶんじ市民活動センター ☎(042)208-3636



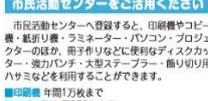
段ボールの巨大迷路が出現



ねじりパンを焼いて楽しむ



新幹線誕生までのエピソードを聞く



市民活動センターをご利用ください
市民活動センターへ登録すると、印刷機やコピー機・複写機・ラミネーター・パソコン・プロジェクターのほか、冊子作りなどに便利なディスクカッター・強力パンチ・大型ステープラー・振り切り用ハサミなどを利用することができます。
●印刷機 年間1万枚まで
●コピー機 年間250枚まで
※印刷機・コピー機は掲載する、ラミネーターはラミネートシートをお持ちください（予約販売）。
※センターのモニター・プリンターは予約ですが、簡単な打ち合わせなどに便利なオープンスペースは市民の皆さんどなたでもお使いいただけます。
※備品や団体登録など詳しくは、センターHPをご覧ください。センターのオープンスペース



→協働コミュニティ課（内362）

●団体交流会の見直し

団体交流会は平成24年度70団体144名の参加から、平成25年度は71団体177名の参加となった。（延べ人数）

●自治会・町内会の見える化

市内の世帯数と自治会・町内会の加入状況からの数字だけではなく、どの地域にどれくらいの会があり、どこは空白なのかが一目了然になるよう、白地図に現状の色分けを行い、分布図を作成した。

それによって、自治会・町内会が密集している地域も明確になり、地域性が明確になった。



■受講前の課題・人財塾で学びたいこと

- ・地域の課題を地域のみinnで抽出し、解決できる仕組み作りを検討する。
- ・地域で活動する人材を育成し、地域で活動する団体支援を行う。
- ・自治会や町内会への加入を促進し、地域の活性化を図る。
- ・地域活性化における先駆的な事例や住民協働の実践について学ぶ。
- ・他の自治体の取組を知り、これからの本市に必要な視点や手法を学ぶ。

■受講後の取組、今後の方向性

●国分寺市市制施行50周年記念「市民活動フェスティバル・平兵衛まつりコラボレーション」事業の実施

平成26年は国分寺市市制施行50周年だったこともあり、市内の研究所と相互連携を行った。春の「市民活動フェスティバル」には800人を超える来場者が、また秋の「平兵衛まつり」には6,000人弱の来場者があり、市民活動団体を始め、地域の商店街や自治会、市職員の協力も得て、市役所のブースには400人を超える来場者があった。地域の力をつなげることに大きな手ごたえを得た両日であったとともに、本講座を受講した成果が結実したと言える。



徳島県徳島市 地域資源をキーワードに仲間を集う!! ~ 若者活躍の場づくりに挑戦

徳島市納税課 阿部知彦 (H24.3 JAMP、H25.2 ステップアップ編 受講)

市町村 (地域) 概況	<ul style="list-style-type: none"> 人口：261,271人（平成27年12月1日現在）、面積191.25 km² 徳島県の県庁所在都市。市内に138もの河川が流れる水都。 400年以上の歴史を持つ「阿波おどり」が有名。 																				
活動主体と 活動地区	報告者の活動 経歴	<ul style="list-style-type: none"> 障害福祉課（3年）→企画政策課（4年）→納税課（現在） 企画政策課所属時に、地域づくり人財塾を受講したことをきっかけに、職務外の取組として活動に従事。 																			
活動地区	<ul style="list-style-type: none"> 徳島県徳島市：阿波おどりの本場 東京都杉並区高円寺：東京高円寺阿波おどりの開催地 																				
地域づくり の状況	<ul style="list-style-type: none"> 全国的にも有名なNPO法人などが活躍している。 官民連携し、シティプロモーション「心おどる水都・とくしま」発信事業を展開。 																				
地域課題 または 問題意識	<ul style="list-style-type: none"> 地域づくりの担い手が高齢化。 活動の継続や新たな取組のため、若者育成が必須。 																				
これまでの 取組 (受講前の 取組)	<table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width:15%;">開始年月</th> <th style="width:40%;">事柄</th> <th style="width:45%;">概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="3" style="text-align: center; padding: 10px;">該当なし（※人財塾受講後に活動を開始したため）</td> </tr> </tbody> </table>			開始年月	事柄	概要	該当なし（※人財塾受講後に活動を開始したため）														
開始年月	事柄	概要																			
該当なし（※人財塾受講後に活動を開始したため）																					
人財塾の 受講目的	<ul style="list-style-type: none"> 学生時代よりボランティアなど、地域活動にかかわっていた。 市職員となってから、いかに活動を行っていくか模索していた。 全国の自治体職員が、どのように地域活動に取り組んでいるか知りたかった。 																				
人財塾で 学んだこと 効果	<ul style="list-style-type: none"> 受講者である全国の自治体職員の熱意に感銘を受けた。 自分が地域課題と考えている事柄に、職務外で取組もうと決意。 飯盛義徳講師にプラットフォーム（多様な主体の相互作用によって社会的創発をもたらすコミュニケーション基盤）の考え方について学ぶ。 地域資源「阿波おどり」をキーワードに、プラットフォーム構築に挑戦する。 																				
受講後の 取組	<p>地域の若者が活躍する場づくりを目指し、域外へのボランティアツアーを計画。毎年、参加者を募集しツアーを継続するとともに、メンバーからの提案を受け、徳島市内でイベントを実施するなど、新たな活動にも発展してきている。</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width:15%;">年月</th> <th style="width:30%;">事柄</th> <th style="width:55%;">概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H25.8月</td> <td>第1回 阿波おどりボランティアツアー</td> <td>徳島の学生たちが、東京高円寺阿波おどりの運営協力に駆けつけるツアーを企画。</td> </tr> <tr> <td>H26.8月</td> <td>第2回 阿波おどりボランティアツアー</td> <td>第1回の成功を受け、参加者を再度募集。ボランティアツアーを継続して開催。</td> </tr> <tr> <td>H27.4月</td> <td>ツアー参加者コアメンバーによる団体化</td> <td>ツアー参加者からの要望を受け、通年で活動するための団体「阿波おどりを応援する会」を設立。</td> </tr> <tr> <td>H27.6月</td> <td>学生主催のイベント「両国杯」開催</td> <td>徳島市中心部において、地域活性化を目的とした阿波おどりのイベントを、学生たちが企画・実施。</td> </tr> <tr> <td>H27.8月</td> <td>第3回 阿波おどりボランティアツアー</td> <td>募集人数を拡充。学生その他、社会人の参加もあり、40名弱のメンバーでボランティア活動を行う。</td> </tr> </tbody> </table>			年月	事柄	概要	H25.8月	第1回 阿波おどりボランティアツアー	徳島の学生たちが、東京高円寺阿波おどりの運営協力に駆けつけるツアーを企画。	H26.8月	第2回 阿波おどりボランティアツアー	第1回の成功を受け、参加者を再度募集。ボランティアツアーを継続して開催。	H27.4月	ツアー参加者コアメンバーによる団体化	ツアー参加者からの要望を受け、通年で活動するための団体「阿波おどりを応援する会」を設立。	H27.6月	学生主催のイベント「両国杯」開催	徳島市中心部において、地域活性化を目的とした阿波おどりのイベントを、学生たちが企画・実施。	H27.8月	第3回 阿波おどりボランティアツアー	募集人数を拡充。学生その他、社会人の参加もあり、40名弱のメンバーでボランティア活動を行う。
年月	事柄	概要																			
H25.8月	第1回 阿波おどりボランティアツアー	徳島の学生たちが、東京高円寺阿波おどりの運営協力に駆けつけるツアーを企画。																			
H26.8月	第2回 阿波おどりボランティアツアー	第1回の成功を受け、参加者を再度募集。ボランティアツアーを継続して開催。																			
H27.4月	ツアー参加者コアメンバーによる団体化	ツアー参加者からの要望を受け、通年で活動するための団体「阿波おどりを応援する会」を設立。																			
H27.6月	学生主催のイベント「両国杯」開催	徳島市中心部において、地域活性化を目的とした阿波おどりのイベントを、学生たちが企画・実施。																			
H27.8月	第3回 阿波おどりボランティアツアー	募集人数を拡充。学生その他、社会人の参加もあり、40名弱のメンバーでボランティア活動を行う。																			

■報告者の取組紹介（展開の経緯・流れ）

目指したのは、地域において活躍する若者を育成する場を構築すること。

地域資源である「阿波おどり」をキーワードに、若者たちが集まり活動するプラットフォームを形成し、活動を通してそれぞれが成長する機会を創出することを試みた。

なお、私は地域づくり人財塾を受講したことを契機に、共に受講した徳島市市民活力開発センター（NPO 支援センター）のスタッフとタッグを組み、一から活動を展開した。受講前の取組に「該当なし」と記載したのは、私が中核となり関わった事例についての記載なのでご留意いただきたい。

●STEP1 高円寺阿波おどりボランティアツアーを企画（H25年8月）

平成25年2月に受講した「地域づくり人育成講座ステップアップ編（現ケーススタディ型）」において、若者が活躍する場づくりとして、域外の地域でのボランティア活動を企画。阿波おどりの本場・徳島の学生たちが、東京の阿波おどり開催地・高円寺へ駆けつけ運営に協力するボランティアツアーを同年8月に実施した。



第1回ボランティアツアーの参加者たち

ツアー参加者の募集に集まったのは、徳島で阿波おどりに懸命に取り組む20名程の学生たち。現地のスタッフと協力しながら、東京高円寺阿波おどりのイベント運営の裏方として活躍した。参加した学生たちの反応は

「これまでにない経験ができた。」「裏方として充実感があった。」と好感触であったと共に、イベント主催者からも好評であったことから、次年度以降のツアーを継続し開催することとなる。

●STEP2 ボランティアツアーの継続実施、コアメンバーによる団体化（H27年4月）

第1回目のボランティアツアーが、参加者及びイベント主催者にも好評であったことから、平成26年8月に第2回目、及び、平成27年8月に第3回目のボランティアツアーを継続して実施。参加者は固定ではなく、その都度、募集をかけた。ツアー参加に要する旅費や宿泊費などは自己負担という条件であったが、趣旨に賛同する学生や若者たちが多く集まってくれた。

また、ツアー参加者の中から東京高円寺の阿波おどりの応援に駆けつける以外にも、独自の活動をしたいと要望があがり始めた。それを受け、平成27年4月に通年で活動する団体として「阿波おどりを応援する会」を設立。ボランティアツアー以外の取組を展開していく。

●STEP3 徳島市中心部でのイベント開催（H27年6月）



学生主催のイベント「両国杯」

「阿波おどりを応援する会」の取組として、地域活性化を目的とした徳島市内中心部でのイベントを企画。内容は週末の街中の公園をステージに、阿波おどりの舞台を披露するというもの。学生たちが中心となりイベントの実行委員会をつくり、出演者の募集から当日の段取りまで行った。地元メディアにも取り上げられ、多くの来場者が集まった。

域外へのボランティアツアーから始まった取組であるが、ツアー参加者であった学生たちが、自分の住む地域において、自らイベントを企画し実施するというところまで発展してきた。

■取組を進める過程で生じた課題

徳島市は地域活動の先進地だと言われている。NPO 黎明期の 1990 年代から、全国的にも有名な団体が多数、活躍しているようだ。しかし、メインとなるプレイヤーが 20 年前と同じ団体も少なくない。そのため、地域活動の 20 年先を見据えた場合、次の時代を担いうる若者たちの育成が必須である。

私自身も、学生時代に取り組んだボランティア活動において、様々な経験を積ませてもらい自分自身が成長できたという自覚もあり、若者を育成する立場として何か役に立ちたいという思いがあった。

ただ、人財育成について専門的な知見を有しているわけではない。地域活動を担う人財となりうるのは誰かという具体的な【対象】、どういった手法で育成するのかという【手法】について見当がつかなかったが、人財塾を受講し、飯盛義徳講師に「多様な主体の相互作用によって社会的創発をもたらすコミュニケーション基盤」であるプラットフォームの考えを学んだ。

そこで、徳島市の地域資源である「阿波おどり」をキーワードに、地域の若者が交流し、活躍する場としてのプラットフォームづくりに挑戦してみようと考えた。

■効果を育むため、課題解決のために留意したこと

●地域資源をキーワードに仲間を集める

本場徳島の阿波おどりには、多くの市民が「〇〇連」という団体を組み踊り込んでいる。地域のお祭りに、みな真剣に向き合っている。

徳島市内のいくつかの大学においても、学生たちは大学や学部単位で阿波おどりの「連」を組織して、お盆の阿波おどりに向け、年間を通して練習を重ねている。地域の最大の魅力である、阿波おどりに本気で取り組む学生であれば、阿波おどりを通じた地域活動に興味を示し、参画してくれるだろうと考えた。

募集の際に心掛けたことは、多様なメンバーを集めること。人数を集めるには特定の団体を巻き込む方が早かったが、学生間の新しい「つながり」を構築したかったので、できるだけ多くの団体や個人に声掛けを行った。



参加者募集のチラシ



高円寺阿波おどりでのボランティア

●自主性を尊重、活動を通して「やりがい」「楽しさ」に気付く

趣旨に賛同し、いくつかの大学の学生たちが集まってくれたが、人財育成の専門的なノウハウはない。ならば、自分たちが学んできたように、活動を通してボランティアの「やりがい」や「楽しさ」を体感してもらうしかない、と考えた。配慮したのは、参加者それぞれが活躍できるよう、ひとり一人に役割を分担すること。また、できるだけ学生たちが主体的に活動できるよう、事務的な作業は私たちが担い、裏方に徹するよう努めた。

■成果

活動を始めて 3 年。飯盛講師の定義する「社会的創発」をもたらす「プラットフォーム」には至っていないが、多様な学生たちや社会人が集まり、互いに刺激しあい、新しいものが生まれる若者活躍の場は構築されつつあるのではないかと感じている。

これまで他人だった学生たちに横のつながりができ、共に活動するコミュニケーションの場ができた。そして、参加者である学生の中からリーダーとなる者が現れ、徳島市内でのイベント開催など、彼らを中心に新たな展開が生まれている。



学生たちで主催するイベントの打合せ

■受講前の課題・人財塾で学びたいこと

学生時代よりボランティア活動など、地域活動にかかわっていた。活動の中で様々な経験を積ませてもらい、ボランティアのチーム立ち上げ、リーダーなどを担わせてもらう事で、他の誰かのために取り組むことの「やりがい」や「楽しさ」を実感することができた。その体験から、地域活動に取り組む人々と共に頑張りたい、応援したいと思い、公務員を目指した。

その後、希望通り市役所に採用され、仕事は非常にやりがいがあり、充実していたが、就職前に考えていた地域活動に取り組むとは少し違う感じがした。行政は、福祉や教育など幅広い分野を担っており、都合よく自分がやりたい仕事を担えるわけではない。だが、ボランティアや地域活動を続けたいとの思いはあり、地域づくり人財塾を受講するにあたり、全国で活動されている他の自治体の方々がどう取り組まれているのか、非常に興味を持った。

活動に取り組む転機となったのは、平成 24 年度に受講した人財塾のステップアップ編だ。既受講者を対象に、少人数で課題解決を目指すもので、行政職員と NPO 等のスタッフが二人一組で参加することが要件だった。平成 23 年度に人財塾を受講し、非常に刺激を受けたことから、募集案内を受けてからすぐに NPO 支援センターのスタッフをくどき、応募した。そして、後々この講座で自分たちが提案した企画（阿波おどりボランティアツアー）を実践していくこととなる。

■受講後の取組、今後の方向性

●仲間との出会い、他の受講生の熱意に感銘

人財塾に参加して、受講者である全国の自治体職員の熱意に感銘を受けた。やり方は人それぞれだが、みな本気で地域課題に取り組んでいる。私が地域課題と感じていたこと、やりたかったことは、直結的に担当している職務と関連することではない。それならば職務外のプライベートの時間で取り組もう。共に受講した自治体職員の姿を見て、そう決意した。

人財塾での大きな収穫は、共に活動するパートナーと出会えたことだ。先述したように NPO 支援センターのスタッフとペアで参加したわけだが、彼とはその後 3 年間、タッグを組んで活動を続けている。日中身動きが取れない時間をカバーしてくれることはもちろん、何事も互いに相談できることがとても大きい。本当に、幾度となく議論を重ねた。職務外の活動だったので、時間的にも体力的にも厳しいと感じたこともあったが、彼のサポートのおかげで乗り切れた。

受講をきっかけに、全国で本気で活動に取り組む自治体職員に出会えたとともに、一緒に活動するパートナーができたことが、大きな転機となったと感じている。



H24 年度ステップアップ編を受講

●10 年後、20 年後も活動を続けたい！



活動を通じて多くの仲間に出会えた！

地域のことは住民に担ってもらう、という発想のもと、全国の自治体で市民の地域活動を推奨している。この考えに基づくと、一市民である私たち行政職員も、職務外においても地域活動に汗を流すべきだと思っていた。

幸い私は、自分の取り組むべき活動を見つけることができた。取組は始めたばかり。もちろん 20 年先を担う若者育成という目標達成はまだまだ先だが、3 年間続けたことで、これから発展していく兆しが見えてきた。この活動を 10 年、20 年続けることで、カタチとなってくると信じている。仕事で担当する職務は変わるだろうが、活動を通じて知り合えた仲間と、今後も取組を続けていきたい。

岡山県高梁市 地域おこさない協力隊員の事例～ 地域おこし協力隊3年間の取組と今
カフェ裏駅店主 長野 エドウィン・タケル (H25.3 JAMP 受講)

<p>市町村 (地域) 概況</p>	<ul style="list-style-type: none"> 人口：32,000人（平成28年1月現在）、面積：546.99km² 隣接自治体：総社市、井原市、新見市、真庭市、吉備中央町、広島県庄原市、神石郡神石高原町 											
<p>活動主体と 活動地区</p>	<p>報告者の活動 経歴</p>	<p>H18年 東京無線タクシー運転手 H21年 有田交通タクシー運転手 H22年 小松屋菓子店（家業） H24年 地域おこし協力隊 H27年 移住コンシェルジュ（～H28年3月まで） H27年 カフェ裏駅 店主（～現在）</p>	<p>活動地区 岡山県高梁市川上町（旧町）</p>									
<p>地域づくり の状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> 2004年、高梁市（旧）と合併。 約30年前に漫画で町おこしを行い、現在は夏季にマンガ絵ぶた祭りというイベントを開催している。 											
<p>地域課題 または 問題意識</p>	<ul style="list-style-type: none"> 町づくり協議会や観光協会、理事会等のメンバーの高齢化と組織変化が乏しいことにより新規事業の発案や活動が滞ってしまっている。 若手や担い手の育成（おしつけ）が定例行事や祭りごと、消防団のような地域限定活動にしかないので若手や担い手が外に出る機会が少なく成長しない。 通例、田舎ルールや噂社会の蔓延。（排他的） 											
<p>これまでの 取組 (受講前の 取組)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「地域おこしをしない」活動スタート (受け入れ自治体側に事前の指定がなかった) <table border="1" data-bbox="343 1142 1444 1556"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>事柄</th> <th>概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H24.9月</td> <td>地域おこし協力隊 着任</td> <td>高梁市役所定住対策課が拠点となり、担当地域での活動がスタートする。</td> </tr> <tr> <td>H25.3月</td> <td>町内会長 就任</td> <td>町内会長として就任。 <ul style="list-style-type: none"> 地域の見回りや声掛け 協議会の会議へ出席 貯金通帳の管理 体育レクリエーション部長任命 草刈りや町内活動の準備 定例集会開催と配布物準備 </td> </tr> </tbody> </table>			年度	事柄	概要	H24.9月	地域おこし協力隊 着任	高梁市役所定住対策課が拠点となり、担当地域での活動がスタートする。	H25.3月	町内会長 就任	町内会長として就任。 <ul style="list-style-type: none"> 地域の見回りや声掛け 協議会の会議へ出席 貯金通帳の管理 体育レクリエーション部長任命 草刈りや町内活動の準備 定例集会開催と配布物準備
年度	事柄	概要										
H24.9月	地域おこし協力隊 着任	高梁市役所定住対策課が拠点となり、担当地域での活動がスタートする。										
H25.3月	町内会長 就任	町内会長として就任。 <ul style="list-style-type: none"> 地域の見回りや声掛け 協議会の会議へ出席 貯金通帳の管理 体育レクリエーション部長任命 草刈りや町内活動の準備 定例集会開催と配布物準備 										
<p>人財塾の 受講目的</p>	<ul style="list-style-type: none"> 全国で活動されている講師や受講生（仲間）の状況や主な事例など知る機会がほしかった。 											
<p>人財塾で 学んだこと 効果</p>	<ul style="list-style-type: none"> 地域活動をしていくことは自分の潜在意識と出会うきっかけになることを学んだ。 互学互習のスタンス。 											
<p>受講後の 取組</p>	<table border="1" data-bbox="343 1792 1444 2004"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>事柄</th> <th>概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H27.12月</td> <td>カフェ裏駅 開業</td> <td>在来種でもある【弥高こんにやく】を使った中南米料理のカフェをオープン。こんにやくの栽培のみならず、【銀杏だれ】【こんにやくクッキー】などの特産品開発の展開を行う。</td> </tr> </tbody> </table>			年度	事柄	概要	H27.12月	カフェ裏駅 開業	在来種でもある【弥高こんにやく】を使った中南米料理のカフェをオープン。こんにやくの栽培のみならず、【銀杏だれ】【こんにやくクッキー】などの特産品開発の展開を行う。			
年度	事柄	概要										
H27.12月	カフェ裏駅 開業	在来種でもある【弥高こんにやく】を使った中南米料理のカフェをオープン。こんにやくの栽培のみならず、【銀杏だれ】【こんにやくクッキー】などの特産品開発の展開を行う。										

■報告者の取組紹介（展開の経緯・流れ）

●STEP1 \地域おこしをしない活動\

（まっさらな心もちで地域内外活動に多様に取り組む）\（H25年1月～）

祖国コスタリカ共和国には「Moda（気分）」という言葉はあるが、ブームという言葉がない。異国にもルーツを持つ私には田舎暮らしは異文化交流であると考えている。昨今、「地方創生」、「地域おこし」がブームになっている面を懸念したわけでもないが、私自身、幼少期に人種差別や偏見、イジメにあい、見栄えの良さや実績、成果ばかりを求めている社会に嫌気がさしていたこともあり「地域おこしをしない」をコンセプトに活動を始める。流行という言葉に身を任せて生きれば、少子高齢化や過疎という社会現象が起きてくる結果は当然なのではなかろうか。都会での暮らしに息が詰まった。当初、地域の代表に叱咤激励され、自分の挑戦したいことで地域と関わっていく手探りの活動が始まる。中山間地域には今もなお、郷土文化や伝統、暮らし等が受け継がれているが、いくつもの日本の宝が消滅の危機に瀕していた。

○主な活動：多文化共生と自文化暮らしの開拓

毎年「地域資源を考える」竹伐り体験交流イベント（地域×学生×移住者×行政）を企画開催



○その他の活動：“地域”活動と“地域外”活動を多彩に実践

地域活動：こんにやく栽培（加工、開発）、多国籍応援団くらしき（応援団長）、学習支援ボランティア、獣害対策（猪解体、皮加工）、特産品開発（無添加・銀杏だれ）、マンガ絵ぶた祭り、タップダンス体験、ゆるキャラきじ丸、CAMP（環境学習・異文化交流）、And more...

地域外活動（フィールドワーク）：消防団（操法）、秋季例祭[渡り拍子]調査研究データ保存、ハーモニカ教室、劇団やたか（劇団）

○取得した資格：地域活動の延長として資格も取得

狩猟免許/キャンプインストラクター

●STEP2 \地産多消から地産他生\

（弥高こんにやくとの出会いと世界に広められる美味しさの探求）\（H25年2月～）

地元特産品 弥高こんにやくづくりの担い手として農家に弟子入り。栽培、加工、特産品開発に取り組む。



●STEP3 \言葉を選んで未来を掴む\

(弥高こんにやくの美味しい食べ方の開発と生業づくり) \ (H27年12月~)

「弥高こんにやく」を使った「こんにやくバーガー」、「コスタリカ丼」の開発や、銀杏だれのプロデュース。小さな絆に支えられてカフェをオープン。

平成27年10月 無添加・銀杏だれ 全国調味料選手権大会（伝統部門最優秀賞）

平成27年12月 こんにやくカフェ「カフェ裏駅」（高梁市）開業。



■取組を進める過程で生じた課題

「地域おこしをしない」異例の協力隊員でもあったので、新聞記事やテレビ取材がある度に、噂や妬みやっかみが始まる。繋がりや関係性もたったの一瞬で崩れはじめ、地域が排他的である事を認識する。

○メディアの取材

- ・ゆるキャラ「きじ丸」活動でテレビ朝日「ナニコレ珍百景」
- ・協力隊活動でテレビ朝日「銭型金太郎」、TBS「アメージング H27.8月、11月放送」等

■効果を育むため、課題解決のために留意したこと

地域での経験や体験した見聞録を集約し「地域つむぎ」の活動を行う。目に見えない小さな絆や団結がうまれる。

■取組の成果

- ・開業への道筋、計画ができた。
(古民家購入、改修、飲食店営業許可取得)
- ・退任後も限界集落地域から行事の手助けを頼まれるようになる。
- ・地元農家からこんにやく畑を無償で借り、加工施設の利用許可をもらう。
- ・特産品開発グループの立ち上げ準備（地元農家等のメンバー数名）
拠点はアパートを丸ごと借り、部屋ごとに製造業許可を取得。現在は1部屋、菓子製造業のみ。



2階建て、地下に駐車場も完備



こんにやくクッキー、こんにやくわらび餅を製造

■受講前の課題・人財塾で学びたいこと

・全国で活動されている講師や受講生（仲間）の状況や主な事例など知る機会がほしかった。

■受講後の取組、今後の方向性

●こんにやくカフェの経営

栽培から手掛けている弥高こんにやくを使った「こんにやくバーガー」、「コスタリカ丼」がメインメニュー。



カフェ裏駅

●新特産品開発と海外展開（食のルーツや起源を追及、そして関わりで展開）

無添加・銀杏だれ → ドイツ、フランス

（銀杏は日本からドイツへ渡り、サプリメント、医薬品として親しまれている）

こんにやくカフェ2号店 → コスタリカ共和国

（こんにやくは中南米ではジャングルに生育しているので馴染みがある）

●次世代への継承（特産品開発グループの成長と独立起業への支援）

①6次産業化を考えるカフェの開催（備中広域農業普及推進センター事務局）

②スムーズなイベントや行事への出店サポート（岡山県内の年間を通した行事を把握済）

③メディア取材等のコーディネート（行政や地元ローカルテレビ局などからの要請や要望がある）



●外国人観光客や海外に向けたメニュー開発と情報発信

インバウンドへの対策と新規開拓。移居前、海外からの旅行客の多いJR鎌倉駅内や大仏様観光案内所を取引先としていた和菓子店での経験を活かし、世界でも注目を浴びている「和食」に焦点を当て、海外（ここでは中南米料理）とのコラボメニュー開発や情報発信、提供を充実していく。



中南米キヌアとこんにやくのから揚げに銀杏だれが決め手のこんにやくバーガー

大阪府河内長野市 人づくりから始まるまちづくり

河内長野市都市魅力戦略課 東映道 (H25.3 JAMP 受講)

市町村 (地域) 概況	<ul style="list-style-type: none"> 人口 109,436 人 (平成 28 年 1 月末現在)、世帯数 47,307 世帯、面積 109.61 km² 昭和 29 年に府内 17 番目の市制を施行。 大阪府の南東端、奈良県、和歌山県と接し、面積の 7 割は森林。 ベッドタウンとして発展し、人口減少、急激な高齢化などに直面。 														
活動主体と 活動地区	報告者の活動 経歴	<業務> 生涯学習によるまちづくり担当 4 年、観光ボランティア担当 4 年、小学校区単位の地域づくり支援 3 年など。 <私事> 青少年リーダー 5 年、青少年健全育成 3 年。													
	活動地区	・特に、天見小学校区は、高野街道も通る古くからの集落で、市制施行前は一つの村であった地域。人口 950 人、市内でもっとも高齢化が進行。													
地域づくり の状況	・河内長野市では、市民、行政の双方の側において、協働によるまちづくりの核となる人材の育成を進めており、小学校区単位の「地域まちづくり協議会」の活動などを通じて、住民同士のつながりや、地域の絆づくりに取り組んでいる。														
地域課題 または 問題意識	・市民のニーズが複雑化、多様化する一方で、行政が全ての社会的ニーズに対応することは現実的に難しいため、行政と市民や事業者などが知恵を出し合い、資源を補い合い、できることを重ね合わせて、社会や地域の課題解決に取り組む必要がある。														
これまでの 取組 (受講前の 取組)	・市では、市民の自由な意見交換の中から、身近な地域課題を洗い出し、具体的な取組や課題解決に結びつけていく取組を進めていた。														
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>開始年月</th> <th>事柄</th> <th>概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H20 年度以降</td> <td>まちづくり交流会を継続し開催する</td> <td>様々な地域住民が、気軽に集い、地域の課題や問題などについて自由に意見交換する場 (平成 22 年度) 開催回数のべ 92 回 参加者のべ 1,095 人</td> </tr> </tbody> </table>	開始年月	事柄	概要	H20 年度以降	まちづくり交流会を継続し開催する	様々な地域住民が、気軽に集い、地域の課題や問題などについて自由に意見交換する場 (平成 22 年度) 開催回数のべ 92 回 参加者のべ 1,095 人								
開始年月	事柄	概要													
H20 年度以降	まちづくり交流会を継続し開催する	様々な地域住民が、気軽に集い、地域の課題や問題などについて自由に意見交換する場 (平成 22 年度) 開催回数のべ 92 回 参加者のべ 1,095 人													
人財塾の 受講目的	・総務省には、中山間や過疎地域の自立、地域おこし協力隊だけではなく、大都市圏のベッドタウンにおける急速な少子高齢化、人口減少の先進地域のことも知ってもらいたい。														
人財塾で 学んだこと 効果	・中でも、豊重先生から受けた感動、感銘、衝撃は大きく、その後の地域づくりへの刺激策として活用することができた。また、これをきっかけとして、SNS を通じて行政職員のネットワークが広がり、様々な情報収集や交流につながった。														
受講後の 取組	・地域の課題解決に向けて住民主体での取組を実現するためには、まず職員が外へ出て、市民と行政の距離感を近づけて、市民に「参加してもらおう」のではなくて、職員のほうが「参加させてもらおう」という感覚、意識を持つことが大事である。														
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年月</th> <th>事柄</th> <th>概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H22 年度以降継続</td> <td>まちづくり地域デビュー講座を企画し開催する</td> <td>市の施策や社会課題を熟知し、活動を展開できるよう、ワークショップなどで学ぶ講座 (平成 22・23 年度) 受講者のべ 629 人</td> </tr> <tr> <td>H22 年度以降継続</td> <td>地域力 UP サポート研修を企画し開催する</td> <td>協働型行政にふさわしい職員の育成を目指した職員研修 (平成 22・23 年度) 受講者のべ 121 人</td> </tr> <tr> <td>H23 年度以降継続</td> <td>天見小学校区の地域サポーターとして活動する</td> <td>地域 (地域まちづくり協議会) と行政のパイプ役として支援、調整活動などを行う職員を各小学校区単位で任命する制度</td> </tr> </tbody> </table>	年月	事柄	概要	H22 年度以降継続	まちづくり地域デビュー講座を企画し開催する	市の施策や社会課題を熟知し、活動を展開できるよう、ワークショップなどで学ぶ講座 (平成 22・23 年度) 受講者のべ 629 人	H22 年度以降継続	地域力 UP サポート研修を企画し開催する	協働型行政にふさわしい職員の育成を目指した職員研修 (平成 22・23 年度) 受講者のべ 121 人	H23 年度以降継続	天見小学校区の地域サポーターとして活動する	地域 (地域まちづくり協議会) と行政のパイプ役として支援、調整活動などを行う職員を各小学校区単位で任命する制度		
	年月	事柄	概要												
	H22 年度以降継続	まちづくり地域デビュー講座を企画し開催する	市の施策や社会課題を熟知し、活動を展開できるよう、ワークショップなどで学ぶ講座 (平成 22・23 年度) 受講者のべ 629 人												
H22 年度以降継続	地域力 UP サポート研修を企画し開催する	協働型行政にふさわしい職員の育成を目指した職員研修 (平成 22・23 年度) 受講者のべ 121 人													
H23 年度以降継続	天見小学校区の地域サポーターとして活動する	地域 (地域まちづくり協議会) と行政のパイプ役として支援、調整活動などを行う職員を各小学校区単位で任命する制度													

■報告者の取組紹介（展開の経緯・流れ、受講後の取組、今後の方向性）

●STEP1 まちづくり交流会を継続し開催した

住民が自由な立場で参加し、地域の課題や活動などについて様々な情報交換を行った。



●STEP2 まちづくり地域デビュー講座を企画し開催した

市の施策や社会課題を熟知した人材を育成し、修了後は、地域まちづくり協議会への参加など、地域活動の牽引役や中心的な担い手としての活躍を期待した講座を企画した。



●STEP3 地域力UPサポート研修を企画し開催した

協働型行政にふさわしい職員の育成を目指した職員研修を実施した。



●STEP4 天見小学校区の地域サポーターとして活動している

東京都小平市 人財塾受講後のフォローアップ研修等について

小平市 健康福祉部 保険年金課 谷合 謙太 (H25.3 JAMP 受講)

<p>市町村 (地域) 概況</p>	<ul style="list-style-type: none"> 人口 188,574 人 (平成 27 年 12 月 1 日現在)、面積 20.51 km² 東京都心から 26 キロ。東京都多摩地域の武蔵野台地に位置する。 江戸市中への飲料水提供を目的とした玉川上水開通により新田開発され現在はベットタウンとし発展。6つの大学を擁する学園都市でもある。 ブルーベリー栽培発祥の地。 FC 東京のホームグラウンド・クラブハウス。 <div style="text-align: right;">  <p>●こだいらの位置</p> <p>位置図</p> </div>													
<p>活動主体と 活動地区</p>	<p>報告者の活動経歴</p>	<p><業務> 平成 21 年度入庁。市民生活部市民課所属であったが、平成 24 年度に市制施行 50 周年の市民生活部企画「たくさんあります！こだいらの魅力つたえ隊」に参加して、はじめて地域づくりに携わる。</p> <p><私的活動> ジャーナリスト楽校 in こだいら (自主研究グループ) の運営委員。</p>												
<p>活動地区</p>	<p>小平市</p>													
<p>地域づくり の状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自治基本条例をつくる市民の会議 (市民の会議) による条例案の検討。平成 21 年 12 月 22 日小平市自治基本条例施行。 													
<p>地域課題 または 問題意識</p>	<ul style="list-style-type: none"> 基礎自治体の職員として地域にどう関わっていくべきかという問題意識が個人的にあった。 													
<p>これまでの 取組 (受講前の 取組)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 地域の魅力発信を目的とする業務・自主研究グループの活動に携わってきた。 <table border="1" data-bbox="343 1211 1441 1518"> <thead> <tr> <th>開始年月</th> <th>事柄</th> <th>概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H24 年度</td> <td>たくさんあります！小平の魅力つたえ隊</td> <td>小平市にゆかりのある芸人が各種イベントの盛り上げや小平の魅力発信を行う活動に携わる。</td> </tr> <tr> <td>H24.10 月</td> <td>イラスト入り改ざん防止用紙</td> <td>住民票などに使用する改ざん防止用紙に、「ぶるべー」と「東京ドロンパ」を掲載。</td> </tr> <tr> <td>H25.1 月</td> <td>ジャーナリスト楽校講座 (業務外)</td> <td>ジャーナリスト楽校 in こだいらの運営委員として「地域×情報発信」をテーマに講座開催。</td> </tr> </tbody> </table>		開始年月	事柄	概要	H24 年度	たくさんあります！小平の魅力つたえ隊	小平市にゆかりのある芸人が各種イベントの盛り上げや小平の魅力発信を行う活動に携わる。	H24.10 月	イラスト入り改ざん防止用紙	住民票などに使用する改ざん防止用紙に、「ぶるべー」と「東京ドロンパ」を掲載。	H25.1 月	ジャーナリスト楽校講座 (業務外)	ジャーナリスト楽校 in こだいらの運営委員として「地域×情報発信」をテーマに講座開催。
開始年月	事柄	概要												
H24 年度	たくさんあります！小平の魅力つたえ隊	小平市にゆかりのある芸人が各種イベントの盛り上げや小平の魅力発信を行う活動に携わる。												
H24.10 月	イラスト入り改ざん防止用紙	住民票などに使用する改ざん防止用紙に、「ぶるべー」と「東京ドロンパ」を掲載。												
H25.1 月	ジャーナリスト楽校講座 (業務外)	ジャーナリスト楽校 in こだいらの運営委員として「地域×情報発信」をテーマに講座開催。												
<p>人財塾の 受講目的</p>	<p>市制施行 50 周年企画で「こだいらの魅力」について発信したことが楽しかったので、地域づくりについて学びたかった。</p>													
<p>人財塾で 学んだこと 効果</p>	<ul style="list-style-type: none"> 先生と直接面談する機会にアドバイスをいただき、今後も地域活動をしていきたいと考えるようになり、現在も業務外の活動ではあるが地域活動を行っている。 全国地域づくり人財塾・東日本支部のフォローアップ研修 (年 4 回) に自主的に参加することで多種多様な事例にふれ互学互習の場を持つことができるようになった。 庁内で行う職員提案制度に応募するなど地域について考えるようになった。 													
<p>受講後の 取組</p>	<table border="1" data-bbox="343 1854 1441 2022"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>事柄</th> <th>概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H25.4 月～</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> フォローアップ研修でプレゼン。 庁内で職員提案。 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> フォローアップ研修で「あったらいいな、こんな小平市」をテーマにプレゼン。 大学を活かしたまちづくりについて職員提案。 </td> </tr> </tbody> </table>		年度	事柄	概要	H25.4 月～	<ul style="list-style-type: none"> フォローアップ研修でプレゼン。 庁内で職員提案。 	<ul style="list-style-type: none"> フォローアップ研修で「あったらいいな、こんな小平市」をテーマにプレゼン。 大学を活かしたまちづくりについて職員提案。 						
年度	事柄	概要												
H25.4 月～	<ul style="list-style-type: none"> フォローアップ研修でプレゼン。 庁内で職員提案。 	<ul style="list-style-type: none"> フォローアップ研修で「あったらいいな、こんな小平市」をテーマにプレゼン。 大学を活かしたまちづくりについて職員提案。 												

■報告者の取組紹介（展開の経緯・流れ）

●STEP1 「たくさんあります！小平の魅力つたえ隊」（平成24年4月）

小平市制施行50周年企画として、(株)よしもとクリエイティブ・エージェンシーに所属する、小平市にゆかりのある芸人が「たくさんあります！小平の魅力つたえ隊」を結成して、市内の各種イベントの盛り上げや小平の地域の魅力に関する情報発信を行う活動に携わる。このとき地域の魅力について考えるようになった。



●STEP2 「イラスト入り改ざん防止用紙」（平成24年10月）

小平市に練習場があるFC東京の担当者をお願いをして、年間約45万枚発行する住民票などの証明書に使用する改ざん防止用紙に、小平市がブルーベリーの栽培発祥の地であること、小平市にはFC東京の練習場があり小平市がFC東京を応援していることをアピールするために小平市のマスコットキャラクター「ぶるべー」とFC東京のマスコットキャラクター「東京ドロンプ」のイラストを入れる。



●STEP3 「ジャーナリスト楽校 in こだいら講座開催」（平成25年1月）

STEP1での活動がきっかけとなり、地域からの情報発信について、地域の学生、小平市民、小平市市職員の有志で学び実践する地域団体「ジャーナリスト楽校 in こだいら」に運営委員として参加。

嘉悦大学で地域からの情報発信について学ぶ連続講座の開催に携わる。



■取組を進める過程で生じた課題

- ・地域の魅力ある資源について自分自身が知らなかった。
- ・所属課の業務以外にも幅広い知識・経験が必要だということ。
- ・効果のある情報発信の方法についてわかっていなかった。

■効果を育むため、課題解決のために留意したこと

- ・先輩職員に相談をし、アドバイスをいただいた。
- ・つながりのある人につなげてもらうなど周りの方に助けていただいた。
- ・わからないことが多かったが、何でもやってみようという思いで行動した。

■受講前の課題・人財塾で学びたいこと

- ・地域活性化や地域づくりについて基礎を学びたかった。
- ・地域づくりに関わって行く姿勢について学びたかった。

■受講後の取組、今後の方向性

●フォローアップ研修でのプレゼン（取組）

- ・地域づくり人育成講座で地域づくりとは、『地域の資源を再認識し、様々なレベルのつながりのなかで、資源を生かした仕掛けが生まれ、地域を活性化すること』だと学び、小平市内にある大学が地域の資源だと考えるようになった。
- ・富永先生、松原先生、神山さん（小平市職員）が中心となり、人財塾の後も継続して互学互習していける場を作ろうと立ち上げた、「全国地域づくり人財塾・東日本支部フォローアップ研修（年4回開催）」に参加。
- ・大学を活かした地域づくりをしたいとプレゼンを行い、先生や参加者からは「大学生のネットワークは作るのではなく、すでにあるので行動してつながること」「大学生は忙しい」「地域づくりにはキャッチコピーが必要」などといった自分自身では考える事ができなかった貴重なフィードバックをいただいた。
- ・フォローアップ研修は、自分が行き詰ったときなどに先生をはじめ、他の自治体職員、NPO職員、学生など地域づくりに携わっている方の意見やアドバイスをいただくことができる場になっている。また、毎回すばらしい事例発表を聞くことで視野が広がり、刺激をもらうことができている。平成27年10月の小平市開催の研修では、司会をさせていただき成長の場となっている。



●庁内の職員提案制度に応募

フォローアップ研修のプレゼンでいただいたフィードバックなどを基に、庁内で行われる職員提案制度（採用されると実現。）に応募。

結果は、不採用だったものの、地域づくり人育成講座に参加し、フォローアップ研修のプレゼンで経験を積んだ結果、自分で施策の提案をすることができるようになったことを実感。

●「僕らの出会ったコダイライフ」の制作発表会

小平市にある嘉悦大学と文化学園大学の学生が、こだいらの魅力ある活動や人に焦点をあて取材した内容をポスターにした取組の発表会に参加。学生も、地域の方もいきいきとしていて、今後も盛り上がっていくことを実感。

●現在の地域活動

現在も地域担当の部署ではないが、業務外の活動で地域に関わっている。

・FM 西東京ラジオ「こだいら MIX」

ジャーナリスト楽校 in こだいらの活動で、FM 西東京のラジオ番組「こだいら MIX」のレポーターとして平成 25 年 8 月から地域の魅力について市民・大学生とレポートを行っている。

取材先は小平市内で、市民農園、ブルーベリー栽培農家、よさこいチーム、合唱団、お菓子の直売所、体操教室など様々なところをレポートしている。この取材をとおして、こだいらの魅力について理解が深まって行くと同時に、取材先の方とのつながりもできてきている。

今後なにが生まれてくるのかが楽しみである。



●自主的な研修への参加

地域づくり人育成講座受講によって『経営の視点』が重要だと学んだので公共 MBA 初級認定講座を受講した。

●タマガワ・リーグ第1回（キックオフ） 大会

東京・多摩地域の自治体職員を中心にオフサイトミーティング（OM）を通してつながりをつくる多摩まちづくり OM「タマガワ・リーグ」の立ち上げに実行委員として参加する。

多摩地域という広域でのつながりが今までなかったこと、また今後広域連携が重要になってくるという思いから生まれたネットワークが始動したので、広域的視点での地域づくりについても関わって行きたい。



大阪府門真市 防災のまちづくり～地域づくりへむけた NPO の取組

NPO 法人あいまち門真ステーション理事長 東田正 (H25.1 JIAM、H27.9 ケーススタディ型 受講)

市町村 (地域) 概況	<ul style="list-style-type: none"> ・人口 12.6 万人 (2015 年 11 月 30 日現在)、面積 12.3 km² ・大阪市の北東部に位置する一部の農村風景が残るベッドタウン ・パナソニックグループの城下町であったが、空洞化し人口急減 		
活動主体と 活動地区	報告者の活動 経歴	<ul style="list-style-type: none"> ・地域通貨『蓮』の発行管理と、門真市市民公益活動支援センターの指定管理を受託する NPO 法人理事長を務める。 ・門真市出身、定年を機に地域貢献したい思いから現職に。 	
地域づくり の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・門真市の「地域づくり」の先兵となる地域として位置付けている。 ・「なんでもみんなの力でできる人財の育成」を目標に一人ひとりが主役になるローテーション社会の実現を目指している。 		
地域課題 または 問題意識	<ul style="list-style-type: none"> ・30 年以上かけて地域で培ってきたコミュニティを次世代 (40 歳～50 歳代) に引き継ぐ仕組みづくり ・若年層に向けた地域づくり、コミュニティの魅力づくりが課題 		
これまでの 取組 (受講前の 取組)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民の共通したテーマである「防災のまちづくり」をきっかけに、地域づくりの担い手となる人財の育成を狙いとしました。 		
	開始年月	事柄	概要
	H25.1 月	JIAM 地域づくり人材育成塾に参加	NPO 法人として中間支援活動、公民協働活動を通して、「地域づくり」を様々に試行する中で、現実とのギャップを感じ、継続研修に参加し知識の習得、外部人脈の拡大を目指した。
	H26.2 月	HUG (避難所運営訓練) に取り組む	門真市市民講座の運営を通して域学連携大学との繋がりができ、地域づくりの手法としての HUG を知り、五月田校区での実施を試みた。
H26.5 月	地域課題解決会議の開催	門真市五月田小学校区には「五月田フォーラム」という地域会議が昭和の時代から継続されており避難所運営訓練に参加した 100 名あまりの住民により、地域課題解決会議を結成した。	
人財塾の 受講目的	<ul style="list-style-type: none"> ・地域づくりの担い手になる次世代の人財探索、リーダーを育て、継続できる仕組みを構築したい。 		
人財塾で 学んだこと 効果	<ul style="list-style-type: none"> ・知識を深め、広い視野を持てるようになった。 ・多様な世代の方々との出会い、交流。 ・国の政策の方向性を理解し、地域づくり推進の指針になった。 		
受講後の 取組	<ul style="list-style-type: none"> ・地域づくりの取組を先導的に推進、取り組んだ地域リーダーが自信を持つ。 		
	年月	事柄	概要
H27.2 月	第 10 回関西元気地域づくり発表会で報告	五月田フォーラムの反省会を踏まえて、校区自治連合会理事が「関西元気地域づくり発表会」において取組を発表した。	

■報告者の取組紹介（展開の経緯・流れ）

●STEP1 人生の転機、定年退職を機に、地域貢献を目指し NPO 法人を設立（平成 22 年 4 月～）

- ・門真市立市民公益活動支援センターの指定管理を受託する NPO 法人あいまち門真ステーションの設立に参加。平成 25 年 4 月から法人理事長に就任。当法人は、大都市周辺の都市同様に、市域からの購買力の流出に苦しんでおり、地域経済の活性化とボランティア活動の醸成を目的とした地域通貨『蓮』の発行管理も行った。
- ・地域通貨『蓮』は 5 年間で累計発行高 1 億円を達成することができ一定の成果があったが、もう一方の目的である市民ボランティア活動の醸成はなかなか浸透しないという課題を抱えていた。
- ・また、市民公益活動支援センターとしての活動では、中間支援機関として公民協働、公益活動の推進も大きな役割であるが、地域による住民意識の濃淡があり、現実の門真市の地域課題探しを本格化させた。



かどま地域通貨「蓮」

●STEP2 五月田校区を先導的モデル地区に（平成 26 年 2 月～）

- ・門真市五月田小学校校区は、旧村地域に新住民が混在した地域だが、住民が話し合いで自ら創り上げた自治組織（地域会議）「五月田フォーラム」が特徴となっている。
- ・このような地域力のある校区で「自助、共助、近助」の地域づくりを試行することによって、門真市全体の先導的モデルとなるべく「防災のまちづくり」に取り組んだ。
- ・具体的には、域学連携で知り合った摂南大学の先生の協力を仰ぎ避難所運営訓練（HUG）を「五月田フォーラム」が主催し行った。子どもからお年寄りまで世代を超えて 100 名の参加があった。



避難所運営ゲーム（HUG）

●STEP3 もう一度大切を見直そう みんなで守れる地域社会の仕組みづくりへ（平成 26 年 5 月～）

- ・門真市も少子化、高齢化の進展は著しく、特に昼間生活では超高齢化社会となっている。災害時には子どもや高齢者は自らを守り、また近助、協力の力で地域を守る体制を構築しなければならない。防災という皆に共通するテーマで実施することで、地域住民の交流、一体感の醸成、地域行事などを通してもう一度地域社会を再構築するきっかけになった。
- ・行政に依存するだけでなく、自らできることから一歩ずつ、継続することが肝要と考えている。このような活動を通して地域人材の発掘と育成に取り組んでいく。



内閣府 SIP 調査の報告会

■取組を進める過程で生じた課題

●住民の自主性を尊重して、あるべき「地域づくり」や「公民協働」を

- ・「地域づくり」や「公民協働」は、重要なキーワードになっている。
- ・しかしながら、議会で承認され市役所で決めたとおりにやって欲しいなど、上意下達式の対応が少なくなかった。
- ・行政の部門間の縦割り意識が強く、中間支援組織としての NPO 法人が部門間の調整をすることもあった。
- ・行政には、市民とともに課題を共有し、解決に向けて、住民の自発性を尊重しながら、その力を活かして共に取り組むという「地域づくり」や「公民協働」の本来のあり方を目指してもらいたい。

●住民同士の信頼関係の醸成の難しさ

- ・また、今までの地域の成り立ちや形成過程の中で、「地域づくり」に対する住民の意識に温度差が大きく、何を始めるにしても話し合いや交流により個人的な信頼関係を構築することが大きなポイントになる。
- ・地域キーマンとの信頼関係づくりをどのように醸成して行くのかが、今後も大きな課題となっている。

■効果を育むため、課題解決のために留意したこと

●行政を巻き込まない、蓄積されたノウハウを保有する研究集団と連携

- ・あえて行政を巻き込まないで様々な自律的取組を行った。
- ・域学連携の大学や研究機関では、蓄積されたノウハウも豊富で、幅広い視点からのアドバイスをすることもできる。彼らは率直な意見交換や市民との対話も惜しまない姿勢が市民からも共感を得ている。大学の先生や学生さんとの共同作業や交流の中で市民は清新さを感じている。
- ・また、大学を巻き込んだ避難所運営訓練（HUG）の取組は、大学にとっても身近に研究フィールドがあり、課題があり、フットワークもよく、地域の中での大学の位置づけが明確になったように思う。



摂南大学研修会指導風景

取組の成果と課題

- ・門真市市民講座の開催から3か月後に五月田校区フォーラムで避難所運営訓練（HUG）を実施、世代を超えた住民100人が参加。域学連携の大学の協力指導もあり、住民の防災意識が向上した。
 - ①平成26年5月、五月田小学校区において避難所運営訓練（HUG）を実施
 - ②平成26年7月、参加者へのHUGアンケートにより反省会を開催
 - ③平成27年5月、前回の活動を契機に内閣府「戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)の実施について摂南大学 理工学部建築学科 建築防災研究室から相談があった。

- ・ちなみに、この研究は、避難所・病院・自治体・薬局をつなぐ医療防災ネットワークの開発を行うもので、被災者が災害直後から情報を発信し、情報を受け取った市町村や都道府県が、その情報をシームレスに被災地外の支援者に伝達していく仕組みについて研究開発する取組。7月に市民への説明会を実施し、この研究を受け入れ、教員・学生が約40日かけて、五月田校区の実態調査を行った。

④平成27年12月、教員・学生の調査結果を基に、市民との議論も交えたSIP調査の報告会を開催。

⑤平成27年に五月田小学校区、二島小学校区（いずれも第七中学校区）において、市役所から「地域会議」発足の話が持ち上がったが、市役所指導型よりも、時間を掛けて持続可能な住民主導型で組織化を選択し事業を進めている。

- ・具体的には、二島小学校区自治会長を中心にHUG模擬練習を行い、平成28年度には市民体験を開催。平成29年度には第七中学校区を対象とした「広域防災訓練」を予定している。
- ・主導的なモデル地区として五月田小学校区で始めた「防災のまちづくり」の取組は、現場では行政サイドとのコンフリクトもあったが、人財塾で学んだ人脈づくりや、プロジェクトの進め方などを学んだ。
- ・また域学連携大学の指導協力もあり、ようやく端緒についたところと考えている。
- ・今後の課題としては、私たちの取組を広く告知し、他の地域においても住民主導の「防災のまちづくり」、それをきっかけにした地域社会の再生につなげたい。

■受講前の課題・人財塾で学びたいこと

- ・「何が課題や問題か」と、話はしているけれども処方箋が考えつかずに、現状分析に入る。無知の老害を排除すべく関連研修に積極的に参加した。
- ・民間企業と公務員との思考回路の違いや判断基準の違いを知り得ようと努力している途上である。行政職人間の研修、人づくりと市民人とのバランスのとれた人間づくりも今後の課題と期待している。

■受講後の取組、今後の方向性

- ・受講生・教授先生へのご負担をお掛けしたと痛感している。どの講義・講座でも最年長者で、みなさんにお気づかいをさせてしまった。ご配慮に感謝している。
- ・受講しての最大の財産は人脈。宝である。全国の行政職員や関連組織の若い人との交わりで大きな力を与えてもらった。メーリングリストで互いに連絡が出来たり交換した名刺で連絡したりしている。
- ・行政の場合、職場転属が多くあるが、後任者を紹介して繋いでいただいた事も多くあった。嬉しいことである。わからないことを尋ねる事は、恥ではなく仕事を成し遂げるためと思える事が実感である。
- ・研修の講座名は同じでも、中身が都度進化している事を感じており、是非何度でも参加して知識を深めたいと考えている。

山口県周南市 若者の地域参画推進の取組

公益財団法人周南市ふるさと振興財団 國兼裕司 (H25.9 JIAM、H26.2 ケーススタディ型 受講)

<p>市町村 (地域) 概況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・人口：147,538人(平成27年11月末現在)面積：656.29km²。 ・山口県の東南部に位置し、北に中国山地を背に、南に瀬戸内海を臨み、その海岸線に沿って大規模工場が立地し、それに接して東西に比較的幅の狭い市街地が続いている。 														
<p>活動主体と 活動地区</p>	<p>報告者の活動経歴</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・報告者は平成17年より市主催の各種イベント等の実行委員会に参加、後に青年団活動を経て、地元で地域一体型の若者グループ「長穂青年部」を設立した。 ・平成24年より地域振興及び地域コミュニティ支援を担当している。 													
	<p>活動地区</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・山口県周南市。小学校区単位で組織される31地区のコミュニティが対象。 ・報告者は、周南市の中山間地域にある長穂地区にて活動。 													
<p>地域づくり の状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校区単位の31地区が、それぞれでまちづくり団体(コミュニティ推進組織)を組織し、特色ある地域づくり活動を行っている。 ・周南市では平成27年度に「第2次まちづくり総合計画」を策定し「無限の市民力と最大限の行政力を結集し周南の価値を高めるまちづくり」を基本理念として掲げ、「共に。」をテーマに共創のまちづくりを推進することとしている。 														
<p>地域課題 または 問題意識</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティ推進組織の高年齢化や次世代の育成が課題となっている。 ・若い世代の地域づくりへの参画推進が課題となっている。 														
<p>これまでの 取組 (受講前の 取組)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域コミュニティの課題である若い世代の地域参画、次世代の育成の支援を目的に、若者が楽しみながら活動できるための土壌づくりを目的として事業を行った。 <table border="1" data-bbox="343 1086 1444 1646"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>事柄</th> <th>概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H24.</td> <td>各地区コミュニティ推進組織の調査</td> <td>周南市の各地区コミュニティ推進組織の事務局を対象に、組織及び地域の活動や課題の調査を行い、今後の支援の方策を検討した。</td> </tr> <tr> <td>H25.6月</td> <td>地域で活動している若者グループの調査</td> <td>各地区の共通課題であった後継者不足(=若い世代の地域参画)に対する支援方法の一環として、他地区の若者参画に活かすことを目的に、既に各地域で活動している若者グループに対して、活動内容や団体の生い立ち、地域との関係性などのヒアリング調査を行った。</td> </tr> <tr> <td>H25.</td> <td>若者グループが活動している地域や地域行事への訪問</td> <td>既に地域で活動している若者グループが参加、主催をしている事業には積極的に足を運び、その様子を自分の目で見て、現地で話を聞くことを重ねた。</td> </tr> </tbody> </table>			年度	事柄	概要	H24.	各地区コミュニティ推進組織の調査	周南市の各地区コミュニティ推進組織の事務局を対象に、組織及び地域の活動や課題の調査を行い、今後の支援の方策を検討した。	H25.6月	地域で活動している若者グループの調査	各地区の共通課題であった後継者不足(=若い世代の地域参画)に対する支援方法の一環として、他地区の若者参画に活かすことを目的に、既に各地域で活動している若者グループに対して、活動内容や団体の生い立ち、地域との関係性などのヒアリング調査を行った。	H25.	若者グループが活動している地域や地域行事への訪問	既に地域で活動している若者グループが参加、主催をしている事業には積極的に足を運び、その様子を自分の目で見て、現地で話を聞くことを重ねた。
年度	事柄	概要													
H24.	各地区コミュニティ推進組織の調査	周南市の各地区コミュニティ推進組織の事務局を対象に、組織及び地域の活動や課題の調査を行い、今後の支援の方策を検討した。													
H25.6月	地域で活動している若者グループの調査	各地区の共通課題であった後継者不足(=若い世代の地域参画)に対する支援方法の一環として、他地区の若者参画に活かすことを目的に、既に各地域で活動している若者グループに対して、活動内容や団体の生い立ち、地域との関係性などのヒアリング調査を行った。													
H25.	若者グループが活動している地域や地域行事への訪問	既に地域で活動している若者グループが参加、主催をしている事業には積極的に足を運び、その様子を自分の目で見て、現地で話を聞くことを重ねた。													
<p>人財塾の 受講目的</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全国の地域づくり事例及び手法を、実践者から直接伺うこと。 ・地域づくり人財の育成の手法や、地域づくり支援のための手法を学ぶこと。 														
<p>人財塾で 学んだこと 効果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの仲間に出会うことができ、SNSなどで常に刺激を受けている。人財塾で出会った仲間の存在が、情報の広がりやモチベーションの向上に繋がっている。 														
<p>受講後の 取組</p>	<table border="1" data-bbox="343 1870 1444 2027"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>事柄</th> <th>概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H26.5月</td> <td>「地域で活躍する若者の交流会」の実施</td> <td>それまではほとんど関わりのなかった各地区の若い世代を結び付け、情報交換や刺激を与えあう場づくりを初めて行った。</td> </tr> </tbody> </table>			年度	事柄	概要	H26.5月	「地域で活躍する若者の交流会」の実施	それまではほとんど関わりのなかった各地区の若い世代を結び付け、情報交換や刺激を与えあう場づくりを初めて行った。						
年度	事柄	概要													
H26.5月	「地域で活躍する若者の交流会」の実施	それまではほとんど関わりのなかった各地区の若い世代を結び付け、情報交換や刺激を与えあう場づくりを初めて行った。													

■効果を育むため、課題解決のために留意したこと

●支援者としてではなく、実践者として、同じ目線で

自身が実践者であり支援者でもあるという立場を活かし、お互いの地域や活動の情報交換をしながら、話をして、きれいな部分だけではない、苦労や課題を聞き出して共有できる関係になることを特に意識した。

●若い世代の活躍をPRし、存在感を示す

「若者は地域に出てこない」「若い人がいない」という負の常識を打ち破るために、若い人も地域で活動しているということをとにかくアピールする機会を多く作った。

特に、市内のすべての地区が一堂に会し、地域紹介や活動発表を行う「周南市コミュニティ交流集会」で初めて、平均年齢30歳以下の部会を持つ長穂地区に事例発表をしてもらうことで、「若い人は地域活動をしない」という意識から、「若い人の発想は面白い」「若い人が活動している地域が羨ましい」「なんで自分たちの地域では、若い人が出てこないのか」という意識を持ってもらえるようにした。



長穂青年部の事例紹介の様子
(周南市コミュニティ交流集会にて)

■取組の成果

一番の成果としては、若い世代の地域間交流が活発化したこと。それまで、それぞれの地域で自分たちの地域の事だけ考えて活動していた若い世代の、地域を超えた繋がりを作れたことで、それぞれの地域のイベントや行事に行き来するなど、交流が増えたことは間違いなく、その後、出展協力やボランティア参加等の相互支援も行われている。これにより、他地区のイベントや行事に参加することで、そこで得たものを自分が暮らす地域にフィードバックできるなど、仲間同士、地域同士で切磋琢磨しあえる関係を築けている。

また、若者の地域参画を諦めていた、考えていなかった地域が、自分たちの地区での若者参画について考えるきっかけにもなったようで、相談に訪れる地域もあり、若者の地域参画や後継者育成について真剣に考え始めた地域は増えてきたように思う。



地域で活躍する若者の交流の場づくり



交流をきっかけに、世界一長い餅を作るイベントには、地区外の若者もスタッフとして参加

■受講前の課題・人財塾で学びたいこと

- ・全国の地域づくり事例及び手法を、実践者から直接伺うこと。
- ・住民が自ら地域デザイナーとして、主体的に地域に関わり、考えていくための仕掛けづくりやコーディネートをするための手法などを学ぶこと。

■受講後の取組、今後の方向性

●出会いを大切に、積極的な仲間づくりを

人財塾では、様々な事例や手法が学べるのはもちろんだが、何より、全国各地から集まってくる、全国の地域づくり人と一緒に学べるということで、仲間づくりの場としてもこれ以上ないものだと思う。

最近は SNS などにより、受講後も積極的な交流・情報交換ができるだけでなく、全国の仲間の活躍が、取組の参考にもなり、自身のモチベーションの向上にも繋がる。受講後は、人財塾以外の講座などにも積極的に参加し、自分自身のスキルアップに努めるとともに、仲間づくりにも力を入れている。

●若い世代が活動しやすいように、必要とされる支援を

交流の場づくりは継続して行っているが、今後の課題は、そこから先の展開をどのように考えていくかということになる。この展開についても、各地区の若い世代から話を聞き、それぞれが必要だと思う内容で、支援の方法を考えていく。こちらが考えたものだけでなく、みんなの意見を反映させた、押し付けではない、必要とされる支援を行っていく。

実際に、「みんなで若い世代が活躍している先進地の取組が勉強できたらいい」という意見が出た際には、県内の先進地への研修事業を企画し、意見交換や情報交換を行ったが、とても好評だった。

今後は、市内のそれぞれが活動する地域での事例を学ぶ交流研修会の実施も計画しており、同じ目的を持った仲間同士で学ぶ場づくりを積極的に行っていきたい。



全国地域づくり人財塾
西日本フォローアップ研修 in 周南の開催



若者の地域参画交流研修事業
(山口県周防大島町にて開催)



“地域で活躍する若者交流会”では毎回積極的な意見交換が行われる

愛媛県 資源の橋渡しを通じた公益活動の活性化

NPO 法人えひめリソースセンター 安永依里子 (H25.9 JIAM、H26.2 ケーススタディ型 受講)

市町村 (地域) 概況	<ul style="list-style-type: none"> 人口 138 万人 (平成 27 年 12 月 1 日現在)、面積 5,676.1 km² 東予：2 次産業、中予：3 次産業、南予：1 次産業 松山市以外の市町では人口が減少傾向にある。 											
活動主体と 活動地区	報告者の 活動 経歴	<ul style="list-style-type: none"> 2013 年 9 月の法人設立時から活動開始。 プライベートでは 2009 年より東京で対話の場づくりに参画し、その後設立された NPO 法人ミラツクとのかかわりも継続中。 										
地域づくり の状況	活動 地区	<ul style="list-style-type: none"> 愛媛県全域を対象としているが、主な活動地域は松山市。 【松山市】人口 515,961 人、面積 429 km² 										
地域課題 または 問題意識	<ul style="list-style-type: none"> NPO 法人の社会的な信頼度の低さ NPO の資源調達、資金調達力 											
これまでの 取組 (受講前の 取組)	<table border="1" data-bbox="336 952 1445 1350"> <thead> <tr> <th>開始年月</th> <th>事柄</th> <th>概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H25.9 月</td> <td>クラウドファンディングサイトの運営・プレゼンテーション機会創出</td> <td>えひめを豊かにするアイデアを持つ人のプロジェクトをブラッシュアップし、市民の前でプレゼンテーションを行う機会「SeeD～本気アイデアプレゼンテーション～」の実施と、クラウドファンディングサイトへの掲載を実施。</td> </tr> <tr> <td>H25.9 月</td> <td>県内 NPO の取材</td> <td>県内の NPO への取材をおこない、インタビュー記事をウェブサイトや SNS で発信し、NPO の活動の広報を行った。</td> </tr> </tbody> </table>			開始年月	事柄	概要	H25.9 月	クラウドファンディングサイトの運営・プレゼンテーション機会創出	えひめを豊かにするアイデアを持つ人のプロジェクトをブラッシュアップし、市民の前でプレゼンテーションを行う機会「SeeD～本気アイデアプレゼンテーション～」の実施と、クラウドファンディングサイトへの掲載を実施。	H25.9 月	県内 NPO の取材	県内の NPO への取材をおこない、インタビュー記事をウェブサイトや SNS で発信し、NPO の活動の広報を行った。
開始年月	事柄	概要										
H25.9 月	クラウドファンディングサイトの運営・プレゼンテーション機会創出	えひめを豊かにするアイデアを持つ人のプロジェクトをブラッシュアップし、市民の前でプレゼンテーションを行う機会「SeeD～本気アイデアプレゼンテーション～」の実施と、クラウドファンディングサイトへの掲載を実施。										
H25.9 月	県内 NPO の取材	県内の NPO への取材をおこない、インタビュー記事をウェブサイトや SNS で発信し、NPO の活動の広報を行った。										
人財塾の 受講目的	<ul style="list-style-type: none"> 全国の仲間づくり、ネットワークづくり 全国の自治体の取組や NPO との協働に関する事例や関わる人の意識を知りたいと思ったから。 											
人財塾で 学んだこと 効果	<ul style="list-style-type: none"> 全国の自治体職員の方のお話を聞くことができ、行政の仕組みやルール、考え方を知ることができた。行政との協働を進めるにあたり、じっくりといろいろな話ができるのはとても学びが多かった。 											
受講後の 取組	<table border="1" data-bbox="336 1659 1445 1984"> <thead> <tr> <th>年月</th> <th>事柄</th> <th>概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H26.4 月</td> <td>協働環境調査報告会の開催</td> <td>NPO 法人 IIHOE (人と組織と地球のための国際研究所：東京都中央区) が実施する協働環境調査の報告会を、行政や NPO などの各セクターに参加してもらって開催した。</td> </tr> <tr> <td>H27.9 月 から</td> <td>多様なセクターとの勉強会開催</td> <td>NPO や地域の活動や抱えている課題への理解を深めるために、金融機関等との勉強会を定期的で開催している。</td> </tr> </tbody> </table>			年月	事柄	概要	H26.4 月	協働環境調査報告会の開催	NPO 法人 IIHOE (人と組織と地球のための国際研究所：東京都中央区) が実施する協働環境調査の報告会を、行政や NPO などの各セクターに参加してもらって開催した。	H27.9 月 から	多様なセクターとの勉強会開催	NPO や地域の活動や抱えている課題への理解を深めるために、金融機関等との勉強会を定期的で開催している。
年月	事柄	概要										
H26.4 月	協働環境調査報告会の開催	NPO 法人 IIHOE (人と組織と地球のための国際研究所：東京都中央区) が実施する協働環境調査の報告会を、行政や NPO などの各セクターに参加してもらって開催した。										
H27.9 月 から	多様なセクターとの勉強会開催	NPO や地域の活動や抱えている課題への理解を深めるために、金融機関等との勉強会を定期的で開催している。										

■報告者の取組紹介（展開の経緯・流れ）

●STEP1 「SeeD～本気アイデアプレゼンテーション～」とクラウドファンディングサイト「えひめSEED」運営開始（平成25年9月～）

法人立ち上げと同時に、クラウドファンディングサイトオープンした。

平成23年から準備をしており、構想はできていたが、継続的に運営するための仕組みや細かな方法が確立されておらず、手探りな状態で運営した。

また、スタッフは全員設立後に採用しており、必ずしも県内のNPOとのつながりが多くはなかった。このため、まずは県内のNPOをまわり、情報収集から始めた。

●STEP2 定期的な開催を目指して（平成26年2月）

「SeeD～本気アイデアプレゼンテーション～」を開催する中で、「プレゼンテーションをしてみたいけれどまとまっていない」、「アイデアを人に説明できるようにするのが苦手」といった声を聞くようになった。

そこで、アイデアを形にするための「Ideas Design WorksShop」というワークショップを実施し、フレームワークを使ってアイデアを参加者同士でブラッシュアップしてもらった。最初のワークショップで、9名の参加者がアイデアを見える化していった。



SeeD～本気アイデアプレゼンテーション～



クラウドファンディングサイト「えひめSEED」

愛媛を豊かにするアイデア（プロジェクト）をプレゼンテーションし、応援したい人の資源（リソース）を募集する応援サイト。資源（リソース）は志金だけではなく、アイデア実行に必要な人脈、モノ、場所、知識、参画なども含まれている。

●STEP3 次に続く場のために（平成26年7月～平成27年3月）

平成26年からは、「SeeD～本気アイデアプレゼンテーション～」の場をプレゼンターが発表するだけでなく、その前後にワークショップを組み合わせて、さらなる広がりを持たせた。

その第1回は、過去のプレゼンターが集合し、プロジェクトの進捗や現在の課題などを共有し、プロジェクトを一步進めた仲間同士で、今抱えている課題解決につながる対話の場を設けた。

その次の回は、まつやま NPO サポートセンターと協力し、他県の実践事例を学ぶセミナーのあとに SeeD を開催した。特に第 2 回は、プレゼンテーション終了後に第 2 部を設け、今アイデアのタネを持っている人たちの話を聞き、どうやって次の一步を踏み出すかを検討する時間を作った。アイデアを持っている人同士、分野は違っても同じ課題を抱えていたり、違った視点からのアイデアをお互いに聞くことで、アイデアを具体化することができた。



SeeD～過去のプレゼンターとの意見交換～

■取組を進める過程で生じた課題

- ・プロジェクトの発掘やワークショップのデザインに時間がかかり、少ない人数で年間何度も開催することが難しかった。
- ・似たようなイベントが増え、差別化が難しくなった。

■効果を育むため、課題解決のために留意したこと

●私たち自身も協働の環を広げる

市町の NPO サポートセンターが開催している、関連性のあるイベント等と協働し、学習から実践までのプロセスを一緒につくれるようにした。

企画や発想法、事業計画の作成方法を学ぶ機会があっても、1 人や団体内だけではなかなか広がらない場合も多い。他者に意見をもらう機会を多く作ることでプロジェクトの内容が深まっていくと考え、プレゼンターのアイデアをより多くの人に聞いてもらうことと、アイデアを持っている人がそのアイデアを発信する機会を増やせるようにした。

■成果

毎回 3 件～4 件のプロジェクトが発表された。



アイデアを形にするための「Ideas Design Workshop」

参加者同士でアイデアをブラッシュアップするだけでなく、過去のプレゼンターやアイデアを温めている人の参加、関連イベントの協働を加えたことにより、様々なアイデアの具現化が加速していった。

■受講前の課題・人財塾で学びたいこと

- ・受講前、取組に感じていた課題は、地域の活動におけるセクター間の考え方の違い。地域活動への共感を広げるための方法。
- ・人財塾で学びたいことは、ほかの地域では、セクター間の立場や考え方の違いをどのように乗り越え、協働しているのか。

■受講後の取組、今後の方向性

●協働環境調査報告会の実施

受講により、セクター間の相互理解を深めるためには、お互いが現状を把握し、知る機会を継続して作る必要があると感じたことから、「社会事業家のマネジメント支援」、「ビジネスと市民生活を通じた環境問題・社会的課題の解決」、「2020年の地球への行動計画立案」に取り組むNPO法人IIHOEが実施する『NPOとの「協働環境調査」』報告会を開催し、協働環境の課題や現状について学ぶとともに、「協働力パワーアップセミナー」も併せて開催し、協働を一步進めるためのきっかけづくりのワークショップを行った。

●多様なセクターとの勉強会の実施

NPOと行政の相互理解とあわせて、企業に対するNPOへの理解を深めることも必要だと感じ、地元金融機関を中心に企業と一緒に地域課題やその取組に関する勉強会を開催している。

千葉県山武市 地域づくりの場としての図書館をめざして～人がツナガル図書館へ

山武市さんぶの森図書館 豊山希巳江 (H25.10 JAMP 受講)

市町村 (地域) 概況	<ul style="list-style-type: none"> 人口：54,139人（平成28年1月1日現在）、面積：146.77km² 平成18年3月27日に成東町、山武町、蓮沼村、松尾町の3町1村が合併して誕生。日本有数の砂浜海岸である九十九里浜のほぼ中央で約8キロメートルにわたって太平洋に面している。 人口は緩やかに減少し続ける一方、高齢化率は増加している。 		
活動主体と 活動地区	報告者の活動 経歴	山武市さんぶの森図書館司書。「ツナガル。」をモットーに、人と人、人と本をつなぐ場としての図書館運営をめざし、地域の人と手をつなぎ、事業を行っている。	
地域づくり の状況	<ul style="list-style-type: none"> 総合計画基本理念：「ともに手を携えて誇りを持てるまちづくり」、将来都市像：「誰もがしがあわせを実感できる独立都市さんむ」 		
地域課題 または 問題意識	<ul style="list-style-type: none"> 社会教育施設の有効な活用法 職員の前向きな気運の醸成 		
これまでの 取組 (受講前の 取組)	<ul style="list-style-type: none"> 通常の業務を超えた部分での人脈づくり、連携 		
	開始年月	事柄	概要
	H24.4月	山武市職員による合唱団「ミードルズ」	職員で結成した合唱団。成人式で披露する。若者へのエールというだけではなく、市長から新人までが心をつなげるきっかけの取組。
	H24.4月	有志での勉強会「オフサイトミーティング」	業務後に有志で集まり、山武市の課題について語り、学ぶ会に参加。山武市のいいところを掘り出し、伝えていくことを目的としている。
H25.8月	図書館イベント「夜の図書館たんけん」	図書館だけではなく、地域のボランティアスタッフと協働で閉館後にイベントを実施。あるものを活かして企画することを意識した。	
人財塾の 受講目的	<ul style="list-style-type: none"> 公共施設でできる街づくりへの貢献 行政課題の認識と支援 情報発信 		
人財塾で 学んだこと 効果	<ul style="list-style-type: none"> 心境の変化：ないものねだりをするのではなく、「今あるもの」を最大限活用する大切さを痛感した。 業務の変化：出先機関でできることは限られているが、市役所との連携、地域住民との連携を持つことで、魅力化することができる可能性を感じる事ができた。 		
受講後の 取組	<ul style="list-style-type: none"> 固定概念を捨て、市民に役立つ図書館づくりのために何ができるかを考えるように。 		
	年月	事柄	概要
	H26.12月	市民有志とのコラボ企画開催	<ul style="list-style-type: none"> 「ライぶらりカフェ」開催 ぶらり訪れたくなるような図書館をめざし、図書館の場を活かす。また図書館を応援してくれる市民とコラボし、新しい視点での事業を展開する。 「ボックスアート作品展」開催 地域のアーティストによる芸術作品を図書館に展示することで、彼らの作品を紹介するとともに、地域の宝の一つであることを周知する。

■報告者の取組紹介（展開の経緯・流れ）

●STEP1 山武市職員による合唱団「ミードルズ」（平成24年4月～）

今まで図書館の業務に関しては前向きに取り組んでいたが、行政目線や市民目線について、意識しないでできてしまった。

そんな時にすでに結成されていたミードルズのメンバーから誘われて入団。月2回業務後に集まり、新人職員から市長までが心一つにして課題曲を共に練習する。発表の場は成人式。晴れ姿の成人を前に人生の先輩から彼らへのエールを伝え、また、この市に生まれたことを誇りに思ってもらえるように努力している。



ミードルズ

●STEP2 有志での勉強会「オフサイトミーティング」（平成24年4月～）

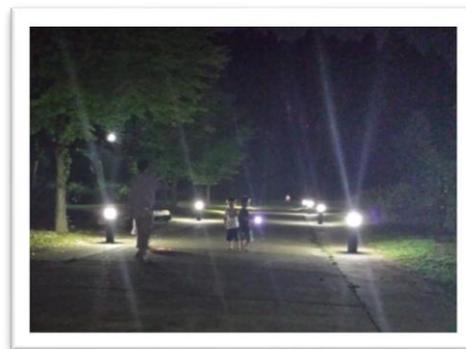
ミードルズがきっかけとなり、有志での勉強会に誘われ、参加するように。山武市の若手職員を中心に、どうしたら山武市が魅力的な市になっていくかを大きな目標に、また世代を超えた語り合いの場づくりを小さな目標に活動。山武市にあるいいところに注目し、紹介していく。情報発信が課題。



オフサイトミーティング

●STEP3 図書館イベント「夜の図書館たんけん」（平成25年8月～）

森を切りひらいて作られた公園の中にある図書館に異動したことがきっかけ。集客や貸し出しが減っていたため、市民に利用してもらえるような企画が必要だった。これは夏休み中に親子で楽しめる企画として、閉館後に図書館から森の公園の探検をしてもらおうというもの。読み聞かせボランティアの協力があり実施した。15組の募集で、80人を超える参加があった。



夜の図書館たんけん

■取組を進める過程で生じた課題

- ・グループ化、固定化した付き合い
- ・継続していくこと
- ・人財の発掘、声かけ
- ・モチベーションの維持

■効果を育むため、課題解決のために留意したこと

●コミュニケーション

目的の大小にかかわらず、キーとなるのは「人」。こちらの思いを伝えるだけではなく、相手の意思を尊重し、傾聴を心がける。人と人の化学合成で思わぬアイデアや突破力が生まれることもある。また、出会いを大切に人脈を広げることで、横の連携が広がって地域の雰囲気盛り上げる。

コミュニケーションはやみくもにとればいいというものではない。相手の置かれている状況や心境を押し量りながら進める必要があるため、日々の勉強も必要となる。

●モチベーション

どうしてもルーチンワークに忙殺されてしまいがちで、何かをやる時には盛り上がりながらも、継続することが難しい。どうしてやろうと思ったのかを話す場づくり、雰囲気づくりをする必要がある。

■成果

ミードルズによって、課をまたいだ話ができるようになってきている。練習の時に顔を合わせている気楽さから、案件が持ち上がった際もスムーズに話ができる状況は風通しもよく、前向きな意見が交わされるようになってきている。

オフサイトミーティングは、継続する、という点で依然課題を抱えている。今後の働きかけを続けていく。

「夜の図書館たんけん」は、広がりを見せている。最初 10 名だったボランティアも、ボランティアがボランティアを呼び、次の年は 20 人、また次は 30 人と、十分な人数が集まり活動してもらえるようになってきている。それに伴い、参加者も 86 名から 116 名、148 名と増加している。これにより、普段来館しなかった市民が興味を持ち利用してもらおう流れが生まれている。

■受講前の課題・人財塾で学びたいこと

- ・市ぐるみの人脈づくり
- ・「あってよかった」と思われる施設運営

■受講後の取組、今後の方向性

●市民が興味を持ち「知りたい」「学びたい」から「参加したい」を応援できる図書館へ

平成 25 年 4 月に異動後、図書館の場を使って、本だけではなく人と出会うことで感じられるやりがい、生きがいを応援したいと考えてきた。その年の 10 月に地域づくり人財塾で学んだことで、本の貸し借りだけの図書館ではなく、人と本、人と人のつながりが感じられる場としての図書館が作れないだろうかという思いが一層強くなった。たくさんの先進事例を紹介していただき、熱い思いを語り伝えてくださった講師のお話を伺っていると、私にもなにか一歩が踏み出せるのではないかと背中を押してもらえたように思う。そういったところから「ライぶらりカフェ」や「ボックスアート作品展」などの

企画が生まれている。

市民が図書館とコラボして限定カフェを開店し、ワークショップを行う「ライぶらりカフェ」は、地元のコーヒー屋さんを中心に集まり、どうしたら図書館にぶらりと立ち寄ってもらえるかを考え、毎回趣向を凝らしている。とうとうゆるキャラまで誕生した。図書貸し出し用のマイバッグを販売し、そのゆるキャラを使ったスタンプを貯めることができる、という仕組みも生まれた。

地元のアーティストたちの作品が図書館の本と融合して展示されている「ボックスアート作品展」は、市民からの持ち込みの企画が実現したもの。市内には美術館がなく、またギャラリーがほとんどないため、アーティストたちは自分の作品を見てもらえる場を探していた。図書館では彼らの作品に光をあて、その独創性を広く知ってもらいたいという思いで実施している。

今後も常に学ぶ気持ちを忘れずに、人と人が生み出す大きな力を大切にしながら、地域づくりのお手伝いをできるように活動を継続していこうと思っている。



ライぶらりカフェ



ボックスアート作品展



オリジナルマイバッグ

岐阜県養老町 ヨロストの若返りと活性化を目指した町おこし

特定非営利活動法人ヨロスト代表理事 竹内 蘭 (H25.3 JAMP、H26.2 ケーススタディ型 受講)

<p>市町村 (地域) 概況</p>	<ul style="list-style-type: none"> 人口：31,428人（平成26年1月末日現在）。面積：72.29km²。 元正女帝が町の「養老の滝」に行幸した際、元号を養老に改元したことが町名の由来。平成29年が養老改元1300年にあたる。 														
<p>活動主体と 活動地区</p>	<p>報告者の活動経歴</p>	<ul style="list-style-type: none"> NPO 法人ヨロストは、岐阜県養老町の若返りと活性化を目指す町おこし団体。平成27年9月にNPO法人化。 報告者は、養老町出身で、個人事業を営む傍ら、町のシンボルである瓢箪を使った創作活動や、地域づくりイベントを企画・運営。 また、Ustream 番組のMCをしていたことから、養老町の町おこし Ustream 番組を製作するグループ「ヨロスト」を平成24年5月に町内若手有志と設立。 													
<p>活動地区</p>	<p>岐阜県養老町</p>														
<p>地域づくり の状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> 養老町は、平成25年9月、平成29年を目標年次とした新しいまちづくり「養老改元1300年プロジェクト」の指針となる「新生養老まちづくり構想」を策定。 構想実現に向け、住民協働を積極的に図るとし、平成26年、「地域自治町民会議と養老町との協働に関する条例」を制定。 														
<p>地域課題 または 問題意識</p>	<ul style="list-style-type: none"> 町おこし、まちづくりに対する住民気運の醸成。 住民と行政、NPO、各種団体、企業の協働の関係づくり。 若い世代の町おこし活動への参画。 														
<p>これまでの 取組(受講前 の取組)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「ヨロスト」の活動目的である、養老町の若返りと活性化を目指して、主として、次の活動をこれまで行ってきた。 <table border="1" data-bbox="339 1205 1445 1594"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>事柄</th> <th>概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H24.5月</td> <td>町おこしインターネット番組「ヨロスト」の配信グループの設立</td> <td>養老町のための町おこしの Ustream 番組を始めることを決意し、平成24年5月より町内の若手有志と「ヨロスト」を発足。</td> </tr> <tr> <td>H25.9月</td> <td>町おこし番組の配信と法人化</td> <td>NPO 法人化し、より行政や地元企業と協力しながら魅力的な番組づくりと配信を行う体制を構築。</td> </tr> <tr> <td>H25.9月～</td> <td>本格的な協働</td> <td>法人化により、たとえば、行政からの事業受託や地元企業からの事業支援など本格的な協働事業を展開した。</td> </tr> </tbody> </table>			年度	事柄	概要	H24.5月	町おこしインターネット番組「ヨロスト」の配信グループの設立	養老町のための町おこしの Ustream 番組を始めることを決意し、平成24年5月より町内の若手有志と「ヨロスト」を発足。	H25.9月	町おこし番組の配信と法人化	NPO 法人化し、より行政や地元企業と協力しながら魅力的な番組づくりと配信を行う体制を構築。	H25.9月～	本格的な協働	法人化により、たとえば、行政からの事業受託や地元企業からの事業支援など本格的な協働事業を展開した。
年度	事柄	概要													
H24.5月	町おこしインターネット番組「ヨロスト」の配信グループの設立	養老町のための町おこしの Ustream 番組を始めることを決意し、平成24年5月より町内の若手有志と「ヨロスト」を発足。													
H25.9月	町おこし番組の配信と法人化	NPO 法人化し、より行政や地元企業と協力しながら魅力的な番組づくりと配信を行う体制を構築。													
H25.9月～	本格的な協働	法人化により、たとえば、行政からの事業受託や地元企業からの事業支援など本格的な協働事業を展開した。													
<p>人財塾の 受講目的</p>	<ul style="list-style-type: none"> NPO 法人化後の活動 実践的な活動を知りたい 														
<p>人財塾で 学んだこと 効果</p>	<p>・今も受講で聞いた話が大変役に立っている。「これはあの先生が言っていたことなのか」など受講内容を振り返ることで、冷静に考えることができたり、バランスのとれた行動が可能となっている。</p>														
<p>受講後の 取組</p>	<table border="1" data-bbox="339 1818 1445 2013"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>事柄</th> <th>概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H27.4月</td> <td>新しい人財創出、新しい企画を実施中。</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 高校生番組「High School Yeah!」、アニメやゲーム音楽等の若者文化配信番組「ぼぷすて」を追加。NPO 法人ヨロストはサポート役へ。 高校生朝市の開催。 </td> </tr> </tbody> </table>			年度	事柄	概要	H27.4月	新しい人財創出、新しい企画を実施中。	<ul style="list-style-type: none"> 高校生番組「High School Yeah!」、アニメやゲーム音楽等の若者文化配信番組「ぼぷすて」を追加。NPO 法人ヨロストはサポート役へ。 高校生朝市の開催。 						
年度	事柄	概要													
H27.4月	新しい人財創出、新しい企画を実施中。	<ul style="list-style-type: none"> 高校生番組「High School Yeah!」、アニメやゲーム音楽等の若者文化配信番組「ぼぷすて」を追加。NPO 法人ヨロストはサポート役へ。 高校生朝市の開催。 													

■報告者の取組紹介（展開の経緯・流れ）

●STEP1 町おこしインターネット番組「ヨロスト」配信グループの設立（H24年5月）

報告者は、養老町生まれ養老町育ち。大学進学で東京に暮らす、卒業後にUターン。平成16年にオリーブオイル輸入会社を起業する傍ら、町のシンボルでもある瓢箪を使った創作活動も行う。

Ustream番組のMCをしていたきっかけで、養老町のための町おこしのUstream番組を始めることを決意し、平成24年5月より町内の若手有志と「ヨロスト」を発足した。



ひょうたん工房



ひょうたん絵付け教室



養老町の街コン「ヨロコン」

●STEP2 町おこし番組の配信と法人化（H25年9月）

「養老町の若返りと活性化を目指す」という観点でUstream番組を製作し配信する。トーク番組が中心であるが、機材やネタなどは全て「ヨロスト」メンバーの手弁当。また、番組には、ニュースコーナー、クイズコーナー、チャレンジコーナー、ゲストコーナーなどを設け、視聴者様に飽きられない番組づくりを行った。また、「ヨロスト」には元テレビ番組制作会社に勤めていた養老町民が所属しているため、町内のイベントのロケ『お出掛けカメラ「ヨロカメ」コーナー』も放送している。

平成26年5月末日現在で定期配信は102回、合計視聴数は19,000名を越え、地元CATVや新聞社からの取材も受けるなど、少しずつ番組の知名度も広がった。また、平成25年9月、町の提案でNPO法人化し、より行政や地元企業と協力しながら魅力的な番組づくりと配信を行う体制を組み立てた。



●STEP3 本格的な協働（H25年9月～）

法人化により、たとえば、行政からの事業受託や地元企業からの事業支援など本格的な協働事業を展開した。

なお、平成27年4月、空き店舗となっていた養老駅舎内の店舗スペースを常設スタジオとしてオープンした。このオープンにあたっては、クラウドファンディングで町外からの支援も募った。拠点ができただけで協働事業の推進にも弾みがつき、瓢箪研究で連携している大垣養老高校に一番組を担当してもらうなど、活動の幅が広がった。



養老駅舎内の常設スタジオ

■取組を進める過程で生じた課題

- ・信頼関係の構築
- ・リーダーに頼らないしくみ
- ・組織の新陳代謝
- ・「本当の一般市民」の意識改革と協働

■効果を育むため、課題解決のために留意したこと

●一緒に行動することの大切さ

協働する相手との信頼関係づくりが一番大事であるが、これは1回や2回会っただけでは絶対できない。何かを一緒にやり、お互い不満も言う。丁寧な信頼関係づくりの繰り返しによって、やっとお互いの立場や考えが理解でき、いろいろなことがわかってくる。

関係づくりに時間がかかることを、ある意味、覚悟をして受け入れていくことが大事だし、そうありたいと思っている。



商工会青年部や行政若手職員とのワークショップ



婚活事業「ヨロ婚」実行スタッフ

●関わっていない人に知ってもらう

地域づくりでは、その人がいないと回らないという状況は絶対にしてはいけない。いかに次につなげていくかを考えたとき、より若い人、いままで関わっていない人に知ってもらうことを常に考え続ける必要があると思っている。私が瓢箪をかぶっているのも、単なる賑やかしのためだけが目的ではなく、知ってもらうという手段の一つである。

ある意味、NPO を立ち上げてみたり、各種団体に所属して一生懸命動いている人というのは、やはりちょっと特殊だったりする。しかし、町を構成しているのは、そのような活動をしていない、本当に普通の人たちの方が大多数だ。そのような人たちの心に自分たちの想いが届く、あるいは、入ってみようかなと思ってもらえるために、自分たちがその都度、どうあり続けるのかということ意識する必要があり、そのようにありたいと思っている。



ひょうたんマダム



食用ひょうたん苗の販売会

■取組の成果

養老町の街コン「ヨロコン」は、平成 27 年度から商工会青年部に引き継がれ、また、高校生番組「High School Yeah!」も始まった。

最近では、近隣市町村の商業系高校 3 校に声をかけて、ゴールデンウィークの 3～5 日の 3 日間、日替わりで、それぞれの高校が開発しているオリジナル商品や特産品を販売する「高校生朝市」を開催した。3 つの高校すべての商品が売り切れ、閑散としていた養老駅に大変な賑わいが見えた。

それを見た利用客から「感動した」と連絡をもらった。少しずつ目に見えるような声があがってきている。

また、番組配信では、アニメやゲーム音楽などの若者文化配信番組「ぽぷすて」(Pop Station)がこの 4 月から始まるなど、いろいろな担い手が現れ、「ヨロスト」がサポート役に回る機会が増えつつある。

この二つを実感している。



養老駅からポップカルチャーをお伝える「ぽぷすて(Pop Station)」番組オリジナルキャラクターも完成



高校生番組「High School Yeah!」



「高校生朝市」開催

■受講前の課題・人財塾で学びたいこと

- ・ NPO 法人化後の活動をどのようにすべきか。
- ・ 実践的な活動を知りたい。

■受講後の取組、今後の方向性

●4 つの課題のヒントを受けて、課題解決に向けての取組推進

私は任意団体から NPO 法人に変わるというタイミングで初級編を受講し、翌年度に、実践編として課題解決編ケーススタディ型を受講した。

そこでいろいろなことを学ぶことができた。

4 つの課題解決に向けた取組が今後の目標でもある。

やはり何かに取り組んで、それが形になるまでに時間がかかる。このため、地域の中で新しい動きが出てくるときは、すごく頼りなく見える。しかし、それこそが宝の種であって、そこに何ができるかを考え続けることと、小さな動きを見逃さないという気持ちが大事ではないかと思っている。

兵庫県三田市 地域ぐるみのまちづくり ～地域担当3年間の取組とこれから～

三田市農業振興課 青野 敬 (H26.6 JIAM、H27.2 ケーススタディ型 受講)

市町村 (地域) 概況	人口：114,619人（H26.10月末）面積：210.32㎢。神戸から25km、大阪から35kmに位置し、大都市近郊のベッドタウンとして発展。昭和62年から10年連続日本一の人口増加率を記録。高齢化率19%。		
活動主体と 活動地区	報告者の活動経歴	地域担当制が導入された24年度に地域支援課担当課長に就任。現職に異動した27年度からは、一市民として市民活動に参加して地域づくりに取り組む。	
	活動地区	フラワータウン地区。三田市南西部に位置する人口約2.3万人、面積337Haのニュータウン。兵庫県企業庁により開発され昭和62年まち開き。4住区で構成。	
地域づくり の状況	○第4次市総合計画目標「ともに考え、ともに支え合い、活気のあるまち」 ・地域担当制導入により地域が課題の解決方法や方向性を考えるための諸活動を支援 ・地域課題を地域で解決する主体となる組織について検討		
地域課題 または 問題意識	○地域力、市民力の向上（次々と新しい自発的活動が生まれる環境づくり）が課題 ・地域体制：地域団体の活動が縦割り ・補助制度：補助金に頼るあまり活動が固定化 ・住民意識：コミュニティの希薄化と義務的な活動		
これまでの 取組 (受講前の 取組)	・地域力、市民力の向上による協働のまちづくりを推進するため、次の環境整備を行う。		
	年度	事柄	概要
	H25～ H26	体制づくり 「まちづくり協議会」 の設立	さまざまな地域課題の解決をめざし、各種団体の枠を超えて地域ぐるみでまちづくりに取り組むネットワーク型組織の設立を地域に提案。
	H26.4月	制度づくり 「ふるさと地域交付金」の創設	特定目的や基準に基づく活動を対象とするのではなく、地域の裁量で用途決定できる資金支援の制度を創設。
H25.12月	意識づくり 「ハイブリッドパーソン交流会」の立上げ	まちづくり活動に対する「やる気と元気の出合いの場」として、志ある活動者などが集う交流会を立ち上げる。	
人財塾の 受講目的	・モチベーションの向上 ・好事例の習得 ・仲間づくり		
人財塾で 学んだこと 効果	・講師から学ぶことで地域担当として果たすべき役割について整理することができた。 ・課題解決編ケーススタディ型で出会った受講生の活動や想いに触発され、私もそのようになりたいという想いが強く生じた。 ・地域担当離任後は、業務としてではなくプライベートで地域活動に関与している。		
受講後の 取組	・人財塾で市民活動の楽しさや生き甲斐を学び、離任後も担当していたフラワータウン地区の市民活動にプロボノとして参加。人脈がより広がり仕事にも役立っている。		
	年度	事柄	概要
H27.4月	一住民、一スタッフとして市民サークル「フラワータウンカレッジ運営協議会」に参加	ジャンルを問わず豊富な経験や知識を持った地域住民を講師に招き、住民同士で教え学び合う講座を企画運営。知的交流を育む場を提供し、カレッジ発の地域イノベーションにつなげていくことを目的としている。	

■報告者の取組紹介（展開の経緯・流れ）

●STEP1 体制づくり 「まちづくり協議会」の設立（H25～H26）

行政主導から住民主体型へ。「自分たちの地域は自分たちでつくる」という考えのもと、自治会をはじめとするさまざまな活動主体が相互に連携・協力し、地域ぐるみで地域課題の解決に取り組むネットワーク型の新たなコミュニティ組織を小学校区単位（フラワータウン地区は4校区）に設置。

地域担当は、所管する地区で地域が進める組織づくり、計画づくり、実践活動等について、次の3点を中心にきめ細かなサポートを行う。

- ①先進地域等に関する情報やデータの提供
- ②関係機関等に対する協議や調整
- ③組織運営や住民合意に関するアドバイス

●STEP2 制度づくり 「ふるさと地域交付金」の創設（H26年4月）

「ふるさと地域交付金」は、地域づくりに関する組織の立ち上げや地域課題を解決する活動を市が財政的に支援。交付金は、できる限り地域で使い道を決定できるように、裁量権を付与した制度設計とし、地域住民の自発的なアイデアや工夫による活動に活用されている。

新たな活動の計画づくり、子どもの見守りサポート、食を通じて交流を深めるまちカフェやランチサービスの運営、また、人と地域をつなぐ多世代交流イベントの開催など、多彩な活動が各地域で展開されている。

それぞれの地域を舞台として、健康福祉、防犯防災、環境美化、文化交流など身近な分野において、自治会や各種団体、住民がパートナーシップを築きながら、これまで個々の団体だけでは解決が出来なかった課題に取り組み、地域の願うまちづくりを進めている。



活動計画づくり



まちカフェ



ランチサービス



子育てサポート



交流イベント

●STEP3 意識づくり 「ハイブリッド パーソン交流会」の立上げ（H25年12月）

各地域では自主的な活動が活発化しているものの、隣接する地域の取組を知り得る機会があまりない。地域ごとの情報を交換しあい新規活動や活動改善に反映させていこうと、地域を越えて活動者が集う場を住民自ら立ち上げた。

交流会は、30～40人が自主的に集まり会食しながら和やかな雰囲気のもと、活動紹介や悩みを相談するなど互いにモチベーションを高め合う。とりわけ、出席者がまちづくりへの意気込みを語る3分間スピーチが面白い。交流会名称は、依頼により地域担当が名づけた。地域、団体、性別、年齢など異なる者同士が一緒に知恵を絞り、常に新たな取組にチャレンジして欲しいという願いが込められている。



三田市マスコット
“キッピー”

■取組を進める過程で生じた課題

●住民の自発性を損なう三つの要因

これまで本庁勤務においても地域と関わりや住民と接する機会があったものの、地域担当として現場（出先機関勤務）に飛び出すと、住民意識や活動状況がより肌身に感じ取れる。また、外から行政を見つめることで新たな発見にも出会える。地域課題として「地域体制」「補助制度」「住民意識」の三つを挙げるが、そもそも行政サイドに次のような問題があり、住民のやる気、熱意、自立性を損ねていることに気づく。行政の姿勢や関与の方法を変えないと、本当の意味での住民参画や協働は実現しない。

- ・地域体制：行政が縦割りのままでまちづくりを進めるから、地域活動も押しつけ合う。
- ・補助制度：行政が補助金の名のもと融通の利かない基準を課すから、地域活動が固定化する。
- ・住民意識：行政が地域の実情を把握せず統一的な成果を求めるから、地域活動が義務的になる。

■効果を育むため、課題解決のために留意したこと

●体制づくりの3つのキーワード「急がばまわれ」、「点と点を結ぶ」、「緩やかな競争心」

- ・「急がばまわれ」。行政主導で組織の設立を押し付けても次の行動につながらない。地域から「つくりたい」、「頑張りたい」、という声があがってくるまではじっと我慢。声があがってきた時は、地域住民はやる気満々であるため、組織づくりはスムーズに展開していく。
- ・「点と点を結ぶ」。設立の準備段階は、さまざまな話が飛び交い收拾がつかなくなる場面が多い。地域担当が点と点の話をうまく整理して道筋を立てると前向きで円滑な話し合いに結びつく。
- ・「緩やかな競争心」。各地域でさまざまな会合に出席して気づいた。住民は意外と隣町には負けたくないという意識を少なからず持っている。このため、他の地域の状況をこと細かく情報提供すると、ポジティブな競争心がくすぐられる。所管する地区では協議会の立ち上げが早かった。

●制度づくりの3つのキーワード「庁内でダメなら外でみつける」、「楽しければ集まる」、「まわりの評価は次につながる」

- ・「庁内でダメなら外でみつける」。新たな制度づくりに際して、庁内の合意形成は苦勞がつきもの。理解を示してくれた市議会議員にも協力をしてもらい、1年かけて制度設計と予算化までこぎつけた。
- ・「楽しければ集まる」。制度を導入して気づいた。地域裁量で用途決定できるため、計画に携わる住民は創意工夫のもと楽しみながら立案する。すると自然と人が集まり人材不足の解消にもつながった。
- ・「まわりの評価は次につながる」。制度を活用した協議会からの「本当に助かった」、「ありがとう」の声は、すぐに市長や市議会議員に届いた。この結果、翌年度の予算は、前年度の倍以上の額を確保することができ、制度の充実につながった。

三田市「ふるさと地域交付金」制度（26年度版）

区分	概要
目的	「ふるさと地域交付金」制度は、地域づくりに関する組織の立ち上げや地域課題を解決する活動を財政的に支援するもの。
交付対象団体	1. 概ね小学校区程度の区域を活動基盤とし、区・自治会を含む多様な団体等で構成されており、地域づくり全般にわたり自主的で主体的な活動を継続的に行う団体。 2. 1に該当する組織づくりをめざす団体。 ※交付対象は一地域一団体。
交付金を利用できる事業	地域の防災防犯・福祉の推進・交流・調査研究事業など、地域課題の解決を目的としたソフト事業。人件費や施設の改修等に要する経費は対象外。
交付額	交付対象団体1の場合は上限100万円、交付対象団体2の場合は上限50万円

